令和7年度 同窓会記念誌

Hitoashi

Take the FIRST step

一足

特集 **同窓生訪問**

強行遠足

お宝大発見!

現役一高生特別インタビュー

歴史の証人

旧校舎、最後の卒業生

喜久乃湯温泉　恩師寄稿

第145周年

甲府中学・甲府一高同窓会

5.17 2025 sat 大安 甲府記念日ホテル

当番幹事 平成4年卒・平成21年卒

表紙の撮影風景はコチラ

経済産業大臣許可互第3046号　山梨県中巨摩郡昭和町西条3600　株式会社 アピオセレモニー

アピオセレモニー　検索

第145周年
甲府中学・甲府一高同窓会

令和7年度 同窓会記念誌

一足（ひとあし）

Take the FIRST step

一足題字：佐野 仁美さん（書道部）

テーマ「一足 -ひとあし-」　サブテーマ「Take the FIRST step」

甲府「一」高と強行遠「足」から一字ずつ。極限まで引き算をした言葉で、はじめの一歩、続ける歩み、もうダメだと思った最後の踏み出し、みんなのひとあしずつ、とさまざまな「イチ」の意味を込めました。わたしたちの「一足を踏み出す覚悟、意志、強さ（を持とう）」という想いが、一高のDNA言葉に乗って卒業生や在校生にも伝わり、気持ちを動かし、何かを変えていくキッカケになれば、と思います。

キービジュアル設定

テーマ「一足 -ひとあし-」のコンセプトに則り、私たちをはじめとして卒業生や在校生が様々な場面で一足を踏み出す際に、飾らずに自分自身に正直に歩を進めてもらいたいという思いを込めて「裸足の足形」をモチーフとしてテーマと組み合わせたキービジュアルを設定しました。（また、男女や世代を特定しないで誰にでも当てはまるビジュアルという意味も込めて「裸足の足形」にしています。）

甲府中学校 校歌

一　我等は日本に生まれたり
神の御代より一系の
皇統戴く我國に
生れしことのうれしさよ
皇國の榮は天地と
共に窮りなかるべし

二　大和島根に山めぐる
甲斐の國あり水清き
郷土の歴史顧みよ
我等の務め輕からず
見よや南に富士ヶ嶺は
皇國の鎮めと聳えたり

三　大海原の揺りやまぬ
波をも風をも凌ぎつつ
護れ皇國を諸共に
國民擧りて國のため
撓まず萎縮まず辟易がず
進むぞ大和ごころなる

甲府第一高等学校 校歌

一　甲斐の國　み中に建ちて
古へゆ　雄心つたへ
新しき　世の鑑とし
勉めてむ　この學びやに

二　日に新た　また日に新た
いや高き　のぞみをもちて
眞なる　理きはめ
勵みなむ　若人われら

三　聳えたつ　芙蓉のたかね
清きかな　甲斐の山川
もろともに　玉と磨きて
贊くべし　天地の化育

起て撃て勝て

起て撃て勝て
甲府一高　一高
その名ぞ我が母校
仰ぐ芙蓉の峰さやか
穹天まさに轟かむ
見よ精鋭の集へるを
結べる眉に必勝の
誓ひは固しわれらが精鋭
おお
起て撃て勝て
甲府一高　一高
その名ぞ我が母校

希望の光

一　希望の光　身に浴びて
若人の意気負うて立つ
いま選手等の門出を
空もとどろに　応ふらん

二　敵軍いかに　猛くとも
忍び伏せたる梓弓
鍛へし腕引きしぼり
敵のかぶとを　射落とさん

三　見よ穹天の　雲は垂れ
覇権を握るは今なるぞ
蛟竜の意気胸に秘め
いざや起て起て　わが選手

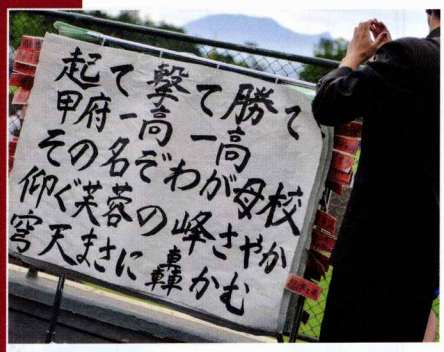
鶴城に

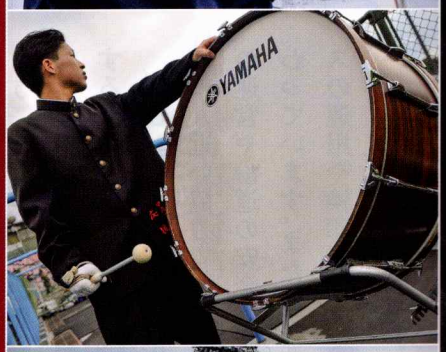
一　鶴城に桜花咲き
人は皆歓楽に酔ふ
われ一人落花を浴びて
前の恥花園に泣きぬ

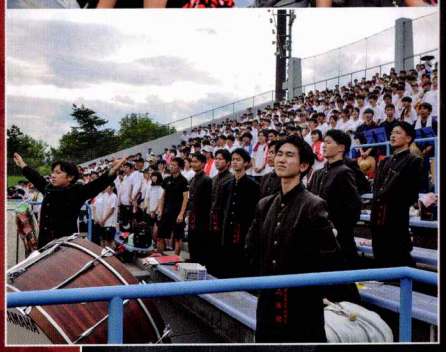
二　秋来る健児の胸に
強き意気宇宙も空し
桜花の旗ひとたび振れば
醜の群れ微塵に飛ばむ
ヤッツケロ　ヤッツケロ
ヤッツケ　ヤッツケ
ヤッツケロ

お御崎さん

お御崎さんの神主が
おみくじ引いて
申すには
いつも一高
勝ち勝ち
勝ち勝ち
ソレ勝ち勝ち
ソレ勝ち勝ち







一足（ひとあし）

甲府中学・甲府一高同窓会
会長　末木 浩一

令和7年度の甲府中学・甲府一高同窓会の総会、並びに懇親会にご参加頂いたご来賓、恩師、同窓生の皆様、誠に有難うございます。心から歓迎いたします。

また、平素からの同窓会の運営、活動に対する同窓生の皆様の心温まるご協力、そして力強いご支援、ご指導に、心から感謝と御礼を申し上げます。

私たちの母校は、甲府中学から甲府一高へと校名の変更はありましたが、1880年(明治13年)10月に開校し、今年度で創立145年となる歴史のある高等学校であります。この間、校是を深く心に刻み、自由で自主自立の「一高魂」を持つ3万7千人を超える卒業生を輩出してきました。

今年度の同窓会のテーマは、「一足(ひとあし)」であります。このテーマは、母校の伝統行事である強行遠足をオマージュして、様々な場面において新たな一歩を踏み出そうとの思いを込めています。

同窓生各位も、足の痛みに堪え、眠気とも戦い、寒く暗い山道を歩いたこと。疲れた、体力の限界だと、何度も止めようと思ったこと。友と語らい励まし合ってゴールを目指したこと。ただただ歩き自分自身と対話し、そしてゴールで得た達成感など、それぞれに高校時代の大切な思い出として、記憶されていることでありましょう。

強行遠足は、1924年(大正13年)11月に第1回が実施され、以後、昭和、平成、令和と時代状況の変遷に合わせて、目指す方面や実施形態の変更をしながら、百年継続してきました。

この間、終戦や台風、新型コロナによる中断もありました。また、交通事故により生徒が死亡する痛ましい出来事もありました。御遺族の御理解を得て、安全配慮をさらに尽くすこととし、従前の距離を一昼夜かけ、高低差のある山道越えに挑戦する方式を復活しました。

現在、強行遠足の実施に当たっては千人近い協力者が、給水・検印所の運営や沿道の安全指導などに携わっています。また、生徒送迎用バスの運用や検印所備品などに多額の費用がかかっています。同窓会でも、6箇学年の検印所運営、有志学年の輸送協力や役員の全線巡視など、全面的な支援と協力を行っています。

今後、一大行事としての強行遠足を継続していくには、生徒数が減少する中で運営協力者の確保や多額な費用をいかに手当するかの課題があります。特に、費用については近年赤字が続いており、何らかの対応をすることが喫緊の課題となっています。これについて、母校も検討を進めており、同窓会も参加し協力していきたいと思います。同窓生各位には、強行遠足の継続に向けての新たな「一足」に対して、御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、本年度総会のため、大変な御苦労と御努力をいただいた、根津宏次実行委員長を中心とする平成4年と平成21年の当番幹事の皆様方全員に、心から感謝と御礼を申し上げます。

ご来賓、恩師、同窓生の益々のご繁栄と、甲府中学・甲府第一高等学校同窓会の更なる発展を祈ります。

御挨拶

山梨県立甲府第一高等学校
校長　飯島 清樹

このたび、第145周年甲府中学・甲府第一高等学校同窓会総会が、「一足―ひとあし― Take the FIRST step」のテーマのもと、盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。

同窓会の皆様方には、日頃より母校甲府第一高等学校の教育活動への御理解と物心両面にわたる御支援を賜り、誠にありがとうございます。衷心より感謝申し上げます。

全学年が6学級となり、規模的には縮小傾向ではありますが、生徒たちは勉学に部活動に一高生らしく前向きに生き生きと取り組んでおります。ここではそのような学校の様子を一部紹介いたします。

部活動では、昨年5月の県高校総体では学校対抗で男子12位、女子13位と健闘し、山岳・空手・弓道・陸上・アーチェリー・水泳が関東大会に出場し、8月の九州北部地区で開催されたインターハイには山岳女子・アーチェリー・水泳そして弓道部が男女アベックでの出場を果たしました。また、野球部が夏の全国選手権大会県予選においてベスト8に進出しました。私立全盛の中で県立の普通科高校がここまで躍進できたことは評価に値すると思います。

文化部では、県高校芸術文化祭において3部門(日本音楽(箏曲)・美術工芸・放送)で最高賞である芸術文化祭賞を受賞し、今年8月に香川県で行われる全国高校総合文化祭には県下最多の6部門が出場することになっています。

進学では、令和7年3月の卒業生は、普通科と探究科を合わせ、国公立大学に延べ112名、私立大学には延べ414名の合格者を出しました。生徒数が減少する中で、国公立大学合格者は8年連続で100名を超え、旧帝大・医学部・早慶上智など難関校にも多くの合格者を出すなど、ここ数年安定した実績をあげているところです。

また、開設10年目となる探究科においては、課題解決・実践重視・外部との協働・プレゼンテーション重視のコンセプトによる探究活動という新しい学びが軌道に乗ってきております。生徒たちは様々な外部機関・組織と連携しながら、課題解決に向けた取り組みを実践しております。さらに令和5年度より文部科学省のWWL(ワールド ワイドラーニング)コンソーシアム構築支援事業の拠点校に指定されて、今年度が最終年になりますが、よりグローバルな視点での探究活動や先進的な学びが可能になっております。

例年多くの同窓生の皆様の御協力をいただいております強行遠足につきましては、昨年度、男子が学校から小諸までの104キロ、女子が高根から小海までの41.6キロのコースで実施することができました。男子はあいにくの雨に見舞われましたが、なんとか実施することができました。逆に、女子は強い日差しの中で熱中症が心配されるほどでした。今回も佐久穂以遠の検印所を中心に、総勢300人近くの同窓生が、夜を徹して検印や給水、誘導、医療などの業務にあたってくださいました。この行事の辛さと価値を理解していらっしゃる同窓生の皆さんの、優しく力強い励ましの言葉に、多くの生徒が背中を押していただきながら小諸を目指しました。完走したか否かに関わらず、生徒たちは強行遠足を通して、間違いなく一歩成長しました。そして生涯にわたって自分を支えてくれる宝物を得たのだと思います。

一高生が、3年間の本校での生活の中で、一高の精神に裏打ちされた有意な人材に成長していきますよう、我々教職員一同これからも一丸となって取り組んでまいります。

同窓会員の皆様におかれましては、今後とも変わらぬ御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げるとともに、甲府中学・甲府第一高等学校同窓会の益々の御発展と皆様の御健勝を祈念しまして御挨拶といたします。

御挨拶

第一四五周年甲府中学・甲府一高同窓会
実行委員長　根津 宏次

第145周年甲府中学・甲府一高同窓会の開催にあたり、当番幹事の平成4年卒、平成21年卒を代表し、ご挨拶を申し上げます。

末木同窓会長、丹沢前同窓会長をはじめ同窓会役員の皆様、飯島校長をはじめ甲府一高先生方には、多大なるご支援およびご指導を賜り、心より感謝申し上げます。そしてこの記念誌への広告や協賛金のご協力、ご来場いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

私が実行委員長を拝命したのが、令和6年3月9日に開催した学年同窓会の後になります。これまで何人もの先輩方から、「実行委員長をやるべきだ」「実行委員長はやらない方がいい」など様々な助言をいただきました。何を信じてよいのか分からない状況で、やはり決め手は周りにいた同級生の仲間の存在でした。昔よく遊んでいたからではなく、これまで会うことがなかった32年間のそれぞれの経験が言葉や表情に表れていて、信頼関係を築きながら一緒に頑張ることができる仲間だと確信したからです。高校時代に話をしたことがなくても、一瞬で壁が無くなり、打ち解けあうのが同級生というかけがえのない存在であることをお互いが実感し、その繋がりをより広く共有していきたいと感じました。助言はその人にとってすべて正しく、またその答えは自分自身が取り組んできた後に出るものだと思います。私にとっては多くの仲間に力強く支えていただき、やって良かったという答えを導くことが出来ました。心から感謝しています。

同窓会テーマは「一足（ひとあし）－Take the FIRST step－」としました。

私たち平成4年卒は、団塊ジュニア世代であり、バブル景気の恩恵を受けることができず、受験戦争や就職氷河期など、厳しい時代を過ごしてきた学年になります。その中で高校時代に得たものは、甲府一高の伝統である誇りや絆、そして強行遠足での胆力や自信だと思います。その支えとなった「甲府一高」と「強行遠足」を極限まで引き算した言葉が、私たちのテーマ「一足」（ひとあし）です。この言葉には、「はじめの一歩」、「一歩ずつ着実に」、「ふみだす勇気」、「最後のひとふんばり」、そして、それぞれが経験してきた足跡を活かし、「いっしょに歩もう」の意味が込められています。また「飾らずに自分らしく」と自分自身の心に正直に歩を進めていきたい想いから「素足」の足型をデザインしました。そしてこれから初めて経験する当番幹事に向け、「FIRST step」を「一高生らしく」踏み出そうと決めました。この「一足」への想いが、一高DNAの言葉となり、同級生、卒業生および在校生へのメッセージになればと考えた次第です。何かを始めるときも辛いときも「一足で頑張ろう」と声をかけあった一年間を過ごすことができました。そして一年限りではない私たちのテーマになったと感じています。

私たちは、本館校舎解体前の最後の一年間を過ごした学年です。つるつるとした石の壁やひんやりとした建物の中を今でも鮮明に覚えています。32年ぶりに訪れた母校は、すでに多くの思い出が染みわたる見慣れぬ校舎でしたが、当時の面影も多く残っていました。同窓会活動を開始するにあたり、遠い記憶がよみがえるとともに、伝統校甲府一高への「二度目の入学」「本当の入学」をしたような感覚があります。高校時代と異なるのは、3年間ではなく、何十年もの前後に繋がっている同窓生の方々との関係性であり、そして卒業式がないことです。その深い繋がりが強い絆として大きな支えと励みになります。深紅の旗の下、これからも多くの世代を超えた懸け橋となる同窓会になっていくことを心より願っています。

結びに甲府一高ならびに同窓会の益々のご発展と、次期当番幹事となります平成5年卒・平成22年卒の皆さんにエールを送らせていただき挨拶とさせていただきます。

Contents

校歌・応援歌 2

御挨拶
甲府中学・甲府一高同窓会　会長　末木 浩一
山梨県立甲府第一高等学校　校長　飯島 清樹
第145周年甲府中学・甲府一高同窓会　実行委員長　根津 宏次 4

特集 同窓生訪問
山梨中央銀行 頭取 古屋賀章 先輩 昭和57年卒業
佐藤輪店 店主 佐藤秋夫 先輩 昭和25年卒業
8

お宝大発見！ 石橋湛山先生の書が図書館書庫から発見？ Over 30 Years ago 平成4年卒の 激レア お宝紹介 18

特集 強行遠足 100 years over 強行遠足 1924-2024

再び、この場所へ

取材スタッフ主観的報告書 Report 20
受け継がれる 伝統の儀式
映画になりそうな ちょっといい話

現役一高生特別インタビュー
平嶋 亜沙美さん
一高 マーメイド Mermaid 目指す舞台は世界！ 29

歴史の証人 旧校舎、最後の卒業生 32

1926(昭和元)年 創業 喜久乃湯温泉 38
恩師寄稿 …… 40
広告目次 …… 47
広告(広告ページ1～111)
バナー広告協賛一覧 …… 164
第145周年甲府中学・甲府一高同窓会 協賛者御芳名 …… 165
第145周年甲府中学・甲府一高同窓会 学年協賛者氏名 …… 166
第145周年甲府中学・甲府一高同窓会 実行委員会 …… 167
編集後記 …… 168

特集
同窓生訪問
#1

山梨中央銀行 頭取
古屋賀章
先輩
昭和57年卒業

甲府一高探究科

2016(平成28)年4月より英語科に代わる学科として『探究科』を設置。これからの時代に必要とされるグローバルな視点を持って、地域の経済や社会に貢献するグローカルリーダーの育成を目指す。1年次から様々な探究活動を通して、国際的視野や論理的思考力、英語によるコミュニケーション力、プレゼンテーション能力などを磨く。

山梨の今を見つめ 未来を語る

山梨中央銀行 古屋賀章頭取×現役一高生（探究科）

自己の可能性を開花させるための基盤をつくる高校の3年間。この時期に何を学び、誰と出会い、どんな未来を描くのか。それはとても重要なことであり、その経験は豊かな人間力を育むことにもつながります。この日、探究科の生徒5名が訪れたのは山梨中央銀行本店。緊張する生徒たちを大先輩である古屋賀章頭取が優しく爽やかな笑顔で出迎えてくれました。なかなかお話しする機会がない偉大な先輩を前にして、田邉一穂さん、新見樹さん、望月彩乃さん、久保田晴斗さん、桑原拓己さんは、目を輝かせながら座談会にのぞみました。

甲府一高探究科
望月彩乃さん

山梨中央銀行
古屋賀章頭取（昭和57年卒）

甲府一高探究科
桑原拓己さん

古屋賀章頭取 プロフィール

1964（昭和39）年生まれ61歳。1982（昭和57）年甲府第一高等学校卒業、1986（昭和61）年慶應義塾大学卒業後、山梨中央銀行に入行。営業統括部長を経て15年7月執行役員同部長、17年6月同貢川支店長、19年6月同東京支店長、同月取締役東京支店長、20年6月常務取締役東京支店長。21年6月代表取締役専務などを経て、2023（令和5）年6月に代表取締役頭取（現職）に就任。

山梨の今を見つめ 未来を語る

山梨中央銀行 古屋賀章頭取×現役一高生（探究科）

古屋賀章頭取

【生徒一同】（思い出話？）山梨中央銀行の頭取が僕たちの先輩だったなんて驚きました。偉大な先輩にお会いできて少し緊張していますが、お話しさせていただくのが楽しみです。今日はよろしくお願いします。さっそくですが、まず最初に山梨中央銀行のことを教えていただけますか？

【古屋頭取】山梨中央銀行は1877年（明治10年）に第十国立銀行として創業しました。以来、山梨県内唯一の地方銀行として、地域密着と健全経営に徹し、地域社会の発展とともに成長してきました。現在、創業150周年となる2027年を見据えた長期ビジョン「Value Creation Bank」を掲げ、あらゆるステークホルダーの皆さまのご期待に応える金融グループを目指しています。山梨は巨大マーケットである東京に隣接しながら、富士山や八ヶ岳、南アルプスなどの豊かな自然に恵まれ、世界に誇れる多くの地域資源・地域産業もあります。また、高速道路網の整備やリニア中央新幹線の開通を踏まえると、将来的に県外からの移住者の増加や事業所の移転など飛躍的な発展が期待できます。つまり山梨は大きなビジネスチャンスと伸びしろ、夢と可能性を持った地域であるといえるでしょう。当行グループはパーパス（存在意義）である「山梨から豊かな未来をきりひらく」のもと、高いポテンシャルを持つ山梨の地域価値向上による持続的な発展に取り組み、地域のすべての人が幸福に暮らし、自己実現ができる「well-being な社会」の実現に貢献できる金融機関でありたいと考えています。今後も、地域社会・お客さま・株主の皆さまから信頼していただける健全な財務体質を堅持するとともに、地域金融機関の原点に立ち返り、今まで以上に地域密着を推進し、お客さまと地域のために積極的な役割を果たしていきます。銀行の仕事というのは非常に多岐にわたるものです。だからこそ山梨の可能性の大きさも実感することができます。今日、若いみなさんと一緒に山梨の今と未来について会話ができることは私にとっても嬉しいことです。

『山梨のブランド力を高めていこう！』探究科の学びで生徒たちが感じた課題に頭取がアドバイス

【古屋頭取】みなさんは一高の探究科とお聞きしました。私の時代には探究科はありませんでしたから、探究科について教えてくれますか？

田邉一穂さん

【田邉】僕たち探究科は探究活動を通してグローカルリーダーにふさわしい能力を身につけることを目指しています。そのために大学や企業をはじめとする地域社会と連携しながら地域課題の解決などの探究的な学びをしています。現在僕たちのグループは『推し農プロジェクト』と題し、農業をテーマにした探究活動をしています。

【古屋頭取】どうして農業について考えてみようと思ったんですか？

【田邉】僕の家の周辺は過疎化が進んでいて、通っていた中学校も閉校になりました。耕作放棄地も増え続けていて、このままだと僕が生まれた地域が今の形ではなくなってしまうと思い、就農率の低下などの課題をどうにかしたいと思ったのがきっかけです。

【古屋頭取】『推し農プロジェクト』では、具体的にどんなことに取り組んでいるのですか？

【田邉】僕らが今、1番課題だと感じているのが、生産者である農家さんと消費者の間に距離があることです。それは物理的な距離だけでなく、心理的な距離も含めてです。この距離があるためにお互いのことが理解できていないのではないか？という前提で、僕らは活動をしています。

大きなビジネスチャンスと伸びしろ 夢と可能性を持つ山梨で

【古屋頭取】みなさん、こんにちは。今日はよく来てくれましたね。私は後輩のみなさんとお会いするのを楽しみにしていました。それから探究科顧問の大塚先生、当行へお越しいただきまして誠にありがとうございます。

大塚正敏先生

【大塚先生】古屋頭取、毎日分刻みの忙しいスケジュールのなか、生徒たちのためにお時間をいただきまして感謝いたします。生徒たちも何日も前から楽しみにしていたようです。今日はよろしくお願いします。

我々の思い出話は後ほどにいたしましょう。

新見　樹さん

【新見】農家さんと消費者が直接コミュニケーションをとる機会は少ないですから、農家さんを身近に感じづらいんだろうと考え、僕たちは農家さんを「推し農家」として情報発信をしてみることにしました。発信内容は農家さんと相談しながら決めて、僕たちが取材、撮影、編集、SNSなどへの投稿をしています。

久保田晴斗さん

【久保田】僕たちは、農家さんと消費者の距離を近くしていくためのPR活動をしているわけですが、そういう活動に果たしてニーズや意味があるのか、頭取の率直な感想が伺いたいです。

【古屋頭取】特に消費者側のニーズは大きいのではないでしょうか。農産物をつくった人が誰かわかるのは、一定の安心感や信頼につながると思います。昨今、安心・安全はもとより、モノに対するストーリーとか、背景など付加価値の定義も広がっていますから、みなさんがこのような形でPRしていくのは、良い方向性だと思います。農家さんも高校生が農業に目を向けて、発信してくれることは、とてもありがたいと感じているでしょうし、期待もしていると思いますよ。

望月彩乃さん

【望月】高校生だからできる部分もあると感じています。こういった取り組みをビジネスとして成り立たせるのはやはり難しいですか？

【古屋頭取】ビジネスでやるとなると確かにハードルは高くなります。ただ現在は農作物をつくることだけが農業ではなく、農業をまわりで支援する人たちも農業分野の一部という考え方も進んでいます。たとえば農家さんに会うツアーとか観光コンテンツとして捉えるなど、多様な取り組みが農業を盛り上げるビジネスにつながる可能性はあると思います。

桑原拓己さん

【桑原】僕たちの活動にも意味があるとわかり嬉しいです。山梨中央銀行さんでも農業に関わる取り組みをしているのですか？

【古屋頭取】実は当行でも10数年前から農業を支援する取り組みをしています。具体的には新しく農業を始める人たちを対象にした勉強会『アグリビジネススクール』を開催し、企業的農業経営者として必要な人材育成、財務、生産、流通、セールスなどのマネジメント知識を習得したりする講習を実施しています。長年、農業の支援を行ってきましたから、当行は農業分野にも幅広いネットワークを持っています。そのなかには県内企業はもちろん、日本を代表するような大手企業もあります。もし、みなさんがそういった企業にお話を聞いてみたければ、私たちがおつなぎすることができるので、言ってくださいね。

【田邉】ありがとうございます。それは心強いです。僕たちが卒業した後も後輩たちに研究を続けてほしいと思っているので、後輩たちにも山梨中央銀行さんにご協力いただけることを伝えます。

【古屋頭取】農業の他にも課題を感じていることはありますか？

【新見】僕は群馬県出身なので、山梨に来て一高に入ってから山梨の良さを知りました。ぶどう栽培をはじめとする農業の素晴らしさはもちろん、人の温かみが感じられるつながりがあるのもいいなと思っています。ですが、そんな山梨の魅力に県民の方が意外に気づいていません。そこが課題だなと思います。

【古屋頭取】山梨は人口が減っていくんじゃないかとか、東京から微妙に遠いとか、山に囲まれていて閉鎖的とか、ネガティブなイメージを持っているかもしれません。でも逆にそれって、発展的に考えるとある意味良い点でもあるんですよ。たとえば東京から1時間から1時間半車で走ったとして、関東圏の場合はあまり景色が変わりません。でも、山梨に向かえば同じ時間で没入感のある自然が待っています。水も美味しいし、空気もいい。さらにリニア中央新幹線が開業すれば品川からわずか25分で来ることができるようになります。また、水素エネルギーの先進県である山梨は環境に優しい企業から注目され、すでにいろんな企業が山梨に入ってきています。他にも、北杜市には著名人も別荘を構え、品の良い別荘地になりつつあるなど、山梨の価値は高まっているんですよ。当行でもスタートアップの支援に力を入れていますが、今後山梨では起業家も育っていくと思います。農業やジュエリー、半導体製造装置といったものづくりの分野も山梨ならではのエコシステムを構築していけば更に強い地域になっていくはずです。

【望月】私も山梨の自然が多いところが好きですが、大学とか、就職とかについて考えると、山梨から出ないとやりたいことができないんじゃないかと感じています。それは解決するのが難しい問題だと思うのですが…。

【古屋頭取】僕も大学進学を機に山梨を出ました。一度山梨から出ることでわかることもあるので、出るのは良いことだと思います。大学生活でいろんなことを考えながら学んだり、さまざまな経験をするなかで、自分のやりたいことが山梨でもできると思ったら戻ってきてもいいし、違うなと思うなら東京で仕事をしたっていい。今はリモートワークも定着したので、山梨に住みながら東京の仕事をし

ている方も多いです。当行も東京や神奈川にいくつもの支店があり、山梨と一体として考えた業務展開をしています。リニアも開業すれば山梨と東京は圧倒的な近さになるので山梨に住みながら東京で働くのもより現実的になってくると思いますよ。

【久保田】探究科で実地調査等に行かせてもらうと、東京では得られないであろう人のつながりが実感できます。先日、山梨の人口減少に関するニュースを見て、このままでは人のつながりという良さが失われてしまう、それはもったいないと感じました。

【古屋頭取】今、山梨の人口は徐々に減少していますが、私はリニアが通れば間違いなく人口は増えていくと思っています。ただし何もしなくていいわけではありません。水素エネルギーや環境に対する高い意識を持つ企業の誘致、また豊かな自然環境の発信など、山梨のブランド力を高めていく必要があります。そうすれば若い人たちも山梨に入ってきてくれるでしょう。

【桑原】人がいるから経済がまわって、文化が生まれるというのがあると思いますが、人口が減少しても、逆に増加しても、今ある山梨の魅力が廃れてしまうみたいなことがあるのではないかと危惧しています。たとえば人のつながりが希薄になったり、古き良き文化が失われてしまったり…。

【古屋頭取】人のつながりは、無尽などでつながる昔ながらの形から、新しい人も含めたつながりを広げるこれからの時代に合った形に変えていく必要があると思います。伝統文化などに関してはある程度意識して残していかなければなりません。今後山梨のブランド力が高まり人が集まれば、地域にも経済力が出てきてお金がまわるようになるでしょう。そうすればおのずと伝統文化を伝承する人も出てくると思います。

『Boys,be ambitious!』志を高く、夢に向かってがんばろう！

【古屋頭取】僕は、みなさんもいろいろ可能性を広げることをやったほうがいいと思います。山梨のなかにいて考えを深めることもできるし、山梨から出て日本各地、或いは世界で活躍するなかで、地域がどうあるべきか考えることもできる。僕は両方あっていいと思っています。『Think Globally Act Locally』（地球規模で考え、地域で行動する）という言葉もあるように考え方を広げていってほしいです。実際にどこかに行かなくても、本を読んだり、人と会って話を聞いてみたり、考えを広げる手段はたくさんあります。校是のひとつである『Boys,be ambitious!』を忘れずに、志を高く持ってがんばってください。

【桑原】僕も大学から県外に出ようと考えていますが、これまでは山梨のなかにいるだけでは嫌だというネガティブな部分がありました。でも頭取のお話を伺って、山梨の良さを再発見し、山梨のためにできる何かを探すために出てみようというポジティブな目標ができました。

【久保田】リニアが開通すれば人口も増加していくだろうという頭取のお考えを伺い、山梨のブランド力を高めていくためには、僕たちの世代がどう行動していくかが大事だと感じました。僕たち自身がもっと山梨を知り、魅力を理解するべきなんだろうと思います。山梨のネガティブなイメージを払拭するためにも、視野を広げていきたいです。

【望月】私は人口減少とか高齢化が課題だと思っていましたが、人口が増加に転じる可能性があると伺い希望を感じました。また、私は住むなら自然が多い山梨がいいと思っていたので、これから山梨に暮らしながら東京などの仕事ができる環境がより一層充実していくだろうというお話が特に印象に残りました。

【新見】頭取のお話を伺い、僕はこれまでネガティブに考えがちだった山梨に対しての印象がポジティブなものに変わりました。日本各地や海外の方々と話をして、それぞれの地域の魅力を感じ取るためには、まず自分自身が山梨の魅力をきちんと知る必要があると感じました。これからは身近な魅力とか小さな発見も大切にしていこうと思います。

【田邉】本日はお忙しいなか、ありがとうございました。僕は頭取のお話を伺うなかで、ポジティブに物事を捉えていらっしゃる姿勢が心に残りました。僕はネガティブな部分をポジティブに変換していく発想能力が持てていない部分があったので、頭取の捉え方に感銘を受けました。僕も大学で一旦山梨を離れますが、学んだことを山梨に戻って活かしたいと思っています。今日は頭取に、一歩踏み出すことの大事さを教えていただきました。本当にありがとうございました。

【古屋頭取】山梨のことを真剣に考え、行動を起こし努力しているみなさんをとても頼もしく感じました。僕も先輩として嬉しいです。これから先のみなさんの活躍を大いに期待しています。夢に向かってがんばってくださいね。

それでは大塚先生、後は我々の思い出話をしましょう。

実は2人は同級生！

時を超えて息づく、伝統校で結ばれた絆

古屋頭取と探究科の担当教諭である大塚先生はともに昭和57年卒の同級生。久しぶりの再会となったこの日、顔を合わせた瞬間から気持ちは一気に高校時代に。懐かしい思い出話に花が咲きました。

【古屋頭取】確か2年と3年で同じクラスだったよね。僕はテニス部で大塚くんは弓道部で。

【大塚先生】そうそう。古屋くんは昔からいい男でミスターミス一高に出ていたのをよく覚えているよ。

【古屋頭取】ミスターミス一高は今の時代にはコンプライアンス的にできないイベントだよね。僕はかぐや姫やロミオとジュリエットのジュリエット役をやらされたよ(笑)。

【大塚先生】僕は学園祭の時、ソクラテスみたいな仮装をして山手通りを歩いたなぁ(笑)。当時の一高は自由な雰囲気があったね。

【古屋頭取】でも、やっぱり1番印象に残っているのは強行遠足。靴も強行遠足用に買って1ヶ月前くらいから履いて、履き潰すほど練習したよ。

【大塚先生】懐かしいなぁ。僕は身体が弱くて1年生の時は出られなかったけど、2、3年では走って、3年の時は12番だったんですよ。とにかく昔は今と比べてイベントが多かったね。

【古屋頭取】強行遠足やミスターミス一高とか、当時はやりたくなかったけど、今思い返してみると、どれも良い思い出ですね。僕は銀行に入ってから財界の方々などとのお付き合いがありますが、そのなかで一高OBの結束力の強さをいつも感じています。「お前も一高か。じゃあ応援してやる」みたいな無条件な何かがありますね。これも伝統校ならではだと思う。

【大塚先生】教員の世界でも一高出身だとわかった瞬間から距離がぐっと縮まりますよ。強行遠足とかああいう苦しい思いを共有しているから、他の高校とは違う絆が生まれるのかもしれませんね。

【古屋頭取】今日、大塚くんの教え子たちと話をして、みんな本当に山梨のことなどをよく考えていると感心しました。大塚くんはどうして教師になろうと思ったんですか。

【大塚先生】僕は一高に入って弓道に触れ、また古屋くんみたいな人間的に大人な友人と出会ったおかけで、高校時代ってこんなに人として成長できるんだと感じたんです。それで僕も高校生の成長が見たいと思い教員を志しました。

【古屋頭取】今日は大塚くんに会えて、教え子たちとも話ができて本当に良かった。ありがとう。

【大塚先生】こちらこそ、生徒たちにとって貴重な経験となりました。僕も再会できて嬉しかった。ありがとう。

現役一高生が将来の夢を語ってくれました！

久保田晴斗(くぼたはると)さん
勉強・部活・探究活動に打ち込み充実した高校生活を送り、将来は人の暮らしを社会インフラの観点から支える仕事に就くのが夢。

新見　樹(にいみいつき)さん
自分に誇れる自分になること。自分の力で誰かを笑顔にすることができるような仕事に就くのが将来の夢。

田邉一穂(たなべいつほ)さん
学習面・部活動面において名実ともに文武両道を達成し、農学部に進学して将来は地方の農を守る仕事に就くのが夢。

望月彩乃(もちづきあやの)さん
化学を使って食料問題の解決につながる研究を行える大学に進学し、将来はその学びを活かした分野の職に就くのが夢。

桑原拓己(くわはらたくみ)さん
自分を支え、成長させてくれた人への恩返しと、多くの人への奉仕活動をするのが将来の夢。

特集 同窓生訪問 #2

佐藤輪店 店主

佐藤秋夫 先輩

昭和25年卒業

当番幹事 記念誌部会女性ライター3人が聞く！

大先輩の『家業への熱意と一高愛』

私たちの大先輩である佐藤秋夫さん94歳を取材させていただきました。『佐藤輪店』を奥様とともに経営されており、私たちが訪れた際には仕事中の手を止めて「よく来たね、待っていたよ。」と笑顔で出迎えてくれました。

戦中戦後に激動の青春時代を甲府中学・甲府一高で過ごされた佐藤さん。当時の思い出を昨日のことのように一生懸命後輩の我々に語ってくれました。

佐藤秋夫さん プロフィール

1931（昭和6）年生まれ94歳。伊勢小学校卒業後、1944（昭和19）年に山梨県立甲府中学校に入学。（学制改革によって1948（昭和23）年に山梨県立甲府第一高等学校に改称。【昭和19～22年が甲府中学、昭和23～25年3月までを甲府一高】）1950（昭和25）年3月甲府一高を卒業。1960（昭和35）年に奥様の正江さんと結婚。一男一女に恵まれた。現在も現役で「佐藤輪店」の店頭に立つ。

先生、何故英語なんか勉強するですか？
Do you speak English?
思い出は強行遠足
富士見、茅野、上諏訪、岡谷、辰野、塩尻、松本
親父の代から自転車店
隣は農林学校があった
甲斐の國 み中に建ちて
軍人は忠節を尽くすを本分とす

子ども時代から店を支えた働きもの

秋夫さんは昭和25年3月に甲府一高を卒業後、大正12年に父親が開業した『佐藤輪店』を継いで2代目としてその歩みを始められました。

三人兄弟の総領（長男）ということもあって小さい頃から家業を手伝い、高校に通っている時も放課後は店でタイヤのパンク修理や水くみなどを率先して行っていたそう。「今でも仕事は素手でしているよ」と語るその笑顔には、長年の経験と誇りが滲みあふれていました。

かつて佐藤輪店の隣には県立農林学校（のちの農林高校、明治37年に竜王町赤坂に開校し、大正6年に伊勢町へ移転）があり、ここには中学卒業者しか入れず、資産家や大きな農家の長男が多く通っていたそうです。そのため、当時は高級品だった自転車がよく売れました。また、修理なども「1日10件以上の対応をすることもあり、順番を待つ生徒たちが列を作るほどだった」と秋夫さん。当時の繁盛ぶりが目に浮かびます。

修理代金として現金の代わりに米を受け取ることもあったそうで、そのため戦時中でも白米や卵を食べることができ、食べ物に困らなかったそうです。「お米をもらえることで、家族の食卓が豊かになったのはありがたかったね」と当時の生活を振り返ります。

農林学校の生徒たちや地域の人々とのつながりは、勤労奉仕で稲刈りや麦刈り、田植えの苗運び（田植えをするのは女性で、男性は田の中にいる女性の近くに苗を投げて渡した）を

昭和30年代の佐藤輪店

現在の佐藤輪店

したお話や養蚕の手伝いのお話からも強く感じられました。当時、蚕が成熟して糸を吐く『おぼこさんがひきる』時期には、養蚕の手伝いを頼まれることもあったそうです。「お蚕さんを触れない町の人が多いなか、自分も最初は怖かったけれど、慣れてしまえばどうってことなかったよ」と懐かしむ秋夫さん。こうした地域との交流は、単なる仕事の枠を超えて、家業と生活が一体化した温かさを感じさせます。

佐藤輪店は創業以来、ほぼ年中無休で営業を続けているそうで、秋夫さんの息子さんの話によると、『暮れの慌ただしい時期から大晦日にかけても店を開け、正月の3日間に束の間の休暇を取るだけ』というほど仕事を第一に考える家庭だったそうです。「父はとても優しく、まじめで、人のために尽くす人。相手のことを常に考え、良いようにしてあげる人です」と語る息子さんの言葉に、父・秋夫さんへの深い尊敬と感謝が感じられました。

また、秋夫さんは長年甲府市伊勢地区の消防団に所属して、地域の防犯と安全に注力され、伊勢分団長まで務めたそうです。「当時はどこの家庭でも石油コンロを使っていて年中ボヤがあったんだよ。消防で招集がかかり、迅速に消火活動を行っていたなぁ。仕事が終わった後に安堵して、皆で呑むこともあったかな。」と懐かしそう語る秋夫さんの姿がとても印象的でした。

開業から現在に至るまで、地域の人々に愛され続けてきた佐藤輪店。取材の間も何度もお店の電話が鳴っていました。現在は日本だけでなくインドや中国、韓国のお客さんも訪れ、言葉はわからなくても、翻訳アプリなどでコミュニケーションをとっているそうです。佐藤さんの真摯な働きぶりと家業への思いが、今もお店と地域をつないでいることを強く感じました。

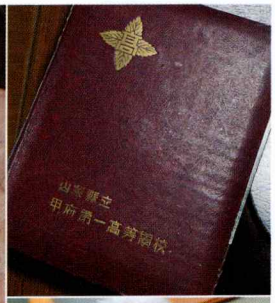
お父さん 100歳まで頑張って

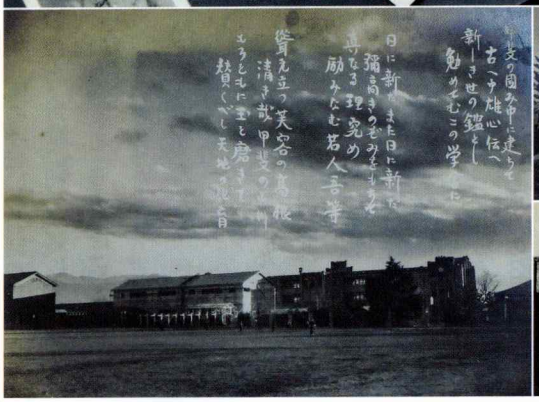
取材の間、秋夫さんを気遣いながら、訪れた取材班にも丁寧に対応してくださった奥様の正江さんに、秋夫さんのことについてお伺いすることができました。

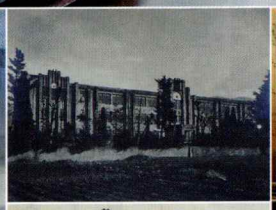
正江さんは秋夫さんよりも6歳年下で、明野のご出身です。明野から韮崎高校に通っていた正江さんは、バスで通学していましたが、韮崎から明野への最終バスに乗り遅れてしまった時には、甲府に住む叔父さんの家に泊まることがよくあったそうです。

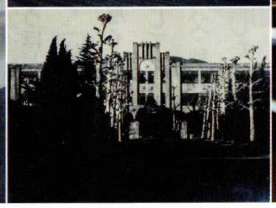
正江さんの叔父さんは、佐藤輪店の向かいで『南温泉』という温泉を営んでいました。この『南温泉』は、昭和21年から平成25年まで、地元の人々に長年愛され伊勢通りを賑わせていた温泉でした。当時の伊勢通りは、ガスや水道などのライフラインは通っていましたが、未舗装の石ころ道でした。そんな時代、南温泉は地元の人々にとって、文化活動の拠点としても親しまれ、茶道や華道の教室の場ともなっていました。正江さんも明野からその教室に通い、そこで秋夫さんと出会うことになりました。叔父さんの薦めもあり、秋夫さん28歳、正江さん22歳の時に結婚しました。結婚を決めた理由について正江さんは、佐藤輪店という老舗の持つ信用の高さと、家業の誇りをみんなが大切にしていたこと、さらに秋夫さんが「一高卒というのは大きなポイントでした」と微笑んでいました。

「お父さんとはケンカもするけど、2人とも大きな病気もせずに今まで暮らしてきました。お店でお客様とふれあえることが楽しいですよ。お父さんには100歳まで頑張ってと言っています」と正江さんは艶やかな髪を撫でながら、少し照れながら語ってくれました。その言葉からは、2人の長い年月にわたる絆と、これからも共に歩んでいくことへの強い意志が感じられました。









一高時代の思い出は今でも鮮明に

秋夫さんは伊勢小学校を卒業後、昭和19年に山梨県立甲府中学校に入学しました。当時、親戚に甲府中学校で英語教師をしている人がいて入学を勧められ、形だけの試験を受けて合格（秋夫さん談）。当時は戦争中で、甲府商業学校（現甲府商業高校）は学生の募集はなく、進学先は甲府中学校と甲府工業学校（現甲府工業高校）しか選択肢がなかったとのことです。

甲府中学時代の通学は朝の7時20分に家を出て、徒歩で通ったとのことで「脚絆に地下足袋、四角い背嚢を背負って、帽子は戦時中の帽子（国民服）、それに冬は軍手をはめて通学し、片道1時間くらいかかりました。授業は8時45分からで、門にいる憲兵に敬礼をしてから敷地内に入りました」と秋夫さん。

当時、秋夫さんの教室は3階で1学年3クラスあったそうです。校舎の窓から周囲を見渡しても甲府中学以外に高い建物などは一切なかったといいます。また、通りから甲府中学へ入ってくる右側に文房具屋があり、セルロイドの下敷きを買って、それを使って勉強したのを覚えているとのこと。「帳面などめったに使えず、わら半紙に穴を開けて束ねたものに紐を通したものを使っていたよ」と当時の学習環境の大変さも教えてくれました。

また、印象に残っていることは、甲府中学では敵国語であった英語を勉強したということ。「先生に、何故英語なんか勉強するのかと聞くと、捕虜を捕まえたときに英語ができなければならないからだと言われたよ。〝Do you speak English? My name is akio sato.〟こんなふうに自分の名前を名乗ってから話すのだと教わったね」と秋夫さん。さらに、戦争中であったため『一、軍人は忠節を尽くすを本分とす』『一、軍人は礼儀を尊ぶべし』と学校の朝礼でも軍人勅諭を唱えていたようです。

その後、話題が甲府大空襲に及んだ際には、昭和20年の7月6日～7日にかけて真夜中のアメリカ軍・B29爆撃機の襲来については鮮明に覚えているとのことで、「空襲があったときは寝ていたけどサイレンで起きたよ。飛行機が飛んできて、甲府駅の方に爆弾が落とされたんだ。すぐに逃げたんだけど伊勢町のこの周辺は被害が少なかったよ」と言葉少なに教えてくれました。

取材中に驚いたことは当時の貴重な卒業アルバムや卒業生調など見せていただいた際に、友人の写真やクラスの集合写真などを見つめながら、「これは○○君、こっちは○○君だ」と熱心に教えてくださり、また「甲斐の國 み中に建ちて～」と校歌もスラスラと口ずさんでいたことでした。その様子から、佐藤さんが甲府中学・甲府一高で過ごした時間は本当にかけがえのないものなのだと感じました。

そして、最後にどうしても聞きたかったことは、やはり強行遠足についてでした。この話題を向けた途端に秋夫さんの表情は一気に明るくなり、目を細めて遠くを見つめて少年のように語り始めました。

「強行遠足は11月3日だったかな。懐中電灯など持たないまま夜中の12時の出発だったよ。

当時の強行遠足の記録

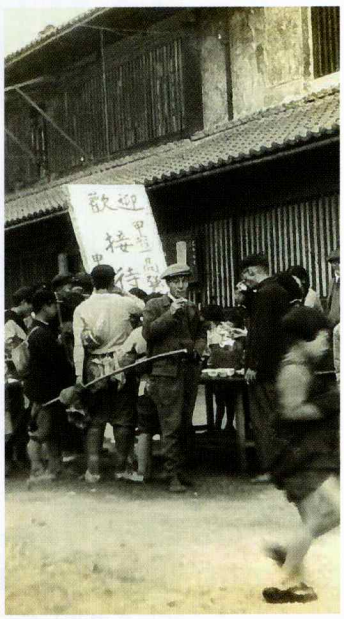
信濃大町 → 豊科 → 松本 → 塩尻 → 辰野 → 岡谷 → 上諏訪 → 茅野 → 富士見 → 台ヶ原 → 韮崎 → 甲府

1944（昭和19）年	第21回
参加者数	685名
戦時中につき、1・2年生のみ小野まで実施	
小野到着（91.7km）	111人
コース：学校～富士見～岡谷～小野	
1945（昭和20）年	
第二次世界大戦につき中止	
1946（昭和21）年	第22回
参加者数	1,743名
最高到達地	穂高（131.5km） 4人
コース：学校～岡谷～松本～豊科～松川	
1947（昭和22）年	第23回
参加者数	1,429名
最高到達地	松川（141.3km） 2人
コース：学校～岡谷～塩尻～穂高	
1948（昭和23）年	第24回
参加者数	1,160名
最高到達地	松川（141.3km） 1人
コース：学校～岡谷～松本～豊科～松川	
1946（昭和24）年	第25回
参加者数	1,240名
最高到達地	信濃大町（152.6km） 1人
コース：学校～岡谷～松本～豊科～大町	

出発準備

登美高地にて

塩川鉄橋付近


韮崎休憩救護所

松本休憩救護所

※写真は甲府一高資料室保管、昭和23年記念アルバムより

1年目は完走できず富士見までしか行けなかった。小学校を卒業したばかりのまだ子供だったから体力的に大変だったよ。今でいう12～13歳の年齢かな。完走できなくて恥ずかしかったのを覚えているよ。

2年目は岡谷まで行けたね。走りながら民家の柿をもいで食べたのを覚えているよ。（今だったら怒られるけど、当時はよくあった光景かな?）」と秋夫さん。さらに「富士見、茅野、上諏訪、岡谷、辰野、塩尻、松本…」と当時のコースを繰り返し何度も教えてくれました。「強行遠足は本当に良い思い出だね」とニッコリと笑い取材中で一番の笑顔を見せてくれました。甲府中学・一高で学んだ生徒にとって、強行遠足は今も昔も変わらず心の中に大切に残る特別な記憶なのでしょう。

（後日、昭和19～昭和24年の強行遠足の資料を見ると当時のコースは全く秋夫さんの語った通りでした。すごい！ただ、開催日やスタート時間は調べた限りでは諸説?あり、昔の出来事の真相に迫るロマンを感じました）

最後に同窓生や現役一高生に『メッセージ』をとお願いしたところ、真剣な表情で「周りの人と仲良く、いつまでも仲良くすること」さらに「人生を楽しみ、いつまでも元気で」「大切なのは三度の食事と定時の起床・就寝、そして時間を守ること、ずるずる生活していてはダメ」と少し語気を強めておっしゃいました。

この言葉には、当たり前のことを当たり前にすることが叶わなかった時代を一生懸命に過ごしてきた秋夫さんの心の底からのメッセージだと私たちは胸に刻みました。

『町の自転車屋さん』佐藤輪店の店主である佐藤さんは、働き者の手と器用な指、小柄ながら鍛えられた体を持ち、活力にあるれている甲府一高の大先輩。私たち取材班を英語で迎え入れ、戦時中の甲府中学・甲府一高時代の思い出を熱心に語る姿が印象的で、まぶしいほどでした。

52歳になる私たちにとって、「周りの人と仲良く、いつまでも仲良くすること」という佐藤さんのシンプルな教えは、未来を考える大きなヒントに。「甲府一高」を共通項としてつながる大先輩から貴重な教えを受けた、ノスタルジックで意味深い2時間となりました。間口の広い明るい店内で自転車を修理する大先輩を、またふらっと訪ねてみようと思います。

お宝大発見！

石橋湛山先生の書が図書館書庫から発見？

現在は視聴覚教室に飾られている「慧光普照」の書

2024年5月下旬の昼下がり、図書館書庫から長年行方不明になっていた？ものすごいお宝が・・・。甲府第一高等学校の創立70周年（1950年・昭和25年）を記念して石橋湛山先生より寄贈された「慧光普照（えこうふしょう）」の書が毛布に包まれた状態で発見されました。当時の様子を学習研究主任の吉田恵子先生と図書館司書の藤森恵理香先生に伺いました。

学習研究主任の吉田先生に聞きました！

毛布に包まれた謎の物体？ガレキに出しちゃうところでした

2023年4月に甲府一高にへ赴任して図書館の管理をされていた吉田先生。

コロナ禍でここ数年できていなかった図書館書庫の整理を、地震や防災対策・PTAバザーに出展する古本の選定なども兼ねて、図書委員会の生徒や図書館司書の藤森先生らと2024年の3月頃から少しずつ始めました。当初は足の踏み場がないくらいで、図書館に入りきらない古い書籍や壊れた椅子、平成10年頃からの部活動や学校関係の資料などであふれていたといいます。

そのような状況から作業を進めて、本棚の上や床が見えるぐらいまでになった時に、「はらぺこあおむし」で有名な絵本作家のエリック・カールの「イルカの親子」のリトグラフ[208/1000]（図書館に展示）や韓国陶芸作家の「青磁の壺」（校長室前に展示）などが次々と発見されました。

後日、いつものように片付けていると、本棚と壁の間に古い毛布とベッドパッドに包まれてビニール紐で縛られた謎の物体が・・・。「一見すると汚れていてガレキ置き場に直行してもおかしくないような代物でした」と吉田先生。

以前の経緯があったので「もしかしたら何かお宝かも」と思い、隣の資料室へ運んで恐る恐る図書館司書の先生と紐を解き、毛布を広げていくと、なんとビックリ！石橋湛山先生の「慧光普照」の書が現れて・・・。急いで事務室に報告しました。その後、「Be Gentleman」「筌忘魚得」などの書が飾られる視聴覚教室へと展示されることに。

おそらく、旧校舎から新校舎へ建て替えられ、学校関係の備品などを整理する際に、この書が何らかの理由で図書館書庫に運ばれたと思われますが、今となっては真意は謎のままです。

しかし、この「慧光普照」の書が学校創立145周年、150周年を迎えようとする現在、現役生や同窓生の前に再び姿を見せたことは何を意味するのか？「慧光＝（仏が発する知慧の光）普照＝（あまねく照らす）」・・・。現代風に解釈すると「目標に向かい努力する一高生それぞれに、等しく光が照らされる」というような意味だろうか。

湛山先生から届いた素敵なメッセージなのかもしれません。

Over 30 Years ago

平成4年卒の激レアお宝紹介

『高校時代の思い出の品』何かありますか？と当番幹事のメンバーに声をかけたら・・・。次から次に「俺、こんなのあるよ!」「私、捨てないでとってあるの!」と30年以上前の懐かしい激レアお宝が大集合しました!

皆さんもご自宅やご実家の『思い出の扉』、久しぶりに開けちゃいませんか？

美術の授業で製作した落款印

全国高校サッカー選手権山梨県大会のパンフレット

ラグビー部のユニフォーム

ラグビー部のユニフォーム

高校2年時の一高祭パンフレット

高校3年時の生徒会誌

サッカー部のユニフォーム

卒業時の同窓会入会記念のテレフォンカード

強行遠足の帽子

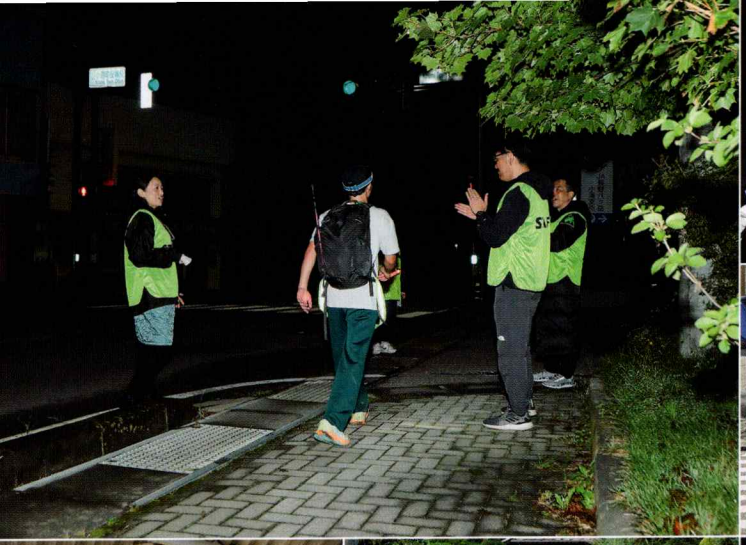
強行遠足のお守り

平成4年卒の卒業生名簿

高校3年時の学年章

創立百十周年記念の文鎮

卒業記念のテレフォンカード



再び、この場所へ

特集 強行遠足

Support 佐久穂検印所

100 強行遠足 1924-2024 years over

1924（大正13）年、第10代江口俊博校長の時代に文部省からの「明治節の11月3日を国民体育日と定める。諸学校とも記念行事を実施せよ」との通達に応え、当時の甲府中学校では、校友会の山岳部が強行遠足を提唱したところ、江口校長も「歩くにまさる身体の訓練はない」とこれを支持し、同年同日に第1回目の強行遠足を開催した。（※2024年は101年目『5回の中止を含む』）

当時は4コースからの選択であった。その中の東京方面へ向かうコースは、朝6時から夕方の6時までの12時間で中央線沿線を東に歩けるだけ歩くものであったが、笹子峠や小仏峠など難所が数多くあり適当なコースではないとの判断で、翌年の1925年（大正14）年からは、西へ向かい松本を目指し、24時間歩けるだけ歩くと改めた。幾多の変遷はあるが、現在まで続く甲府一高の伝統行事である強行遠足の原型がこの時に誕生した。

そして2024（令和6）年10月5日・6日の両日に96回目の『強行遠足』が開催され、私たちも同窓会当番幹事として33年ぶりにこの場所へ戻ってきた。高校時代に強行遠足から『自分自身と向き合うこと』『人々に感謝すること』『困難に立ち向かうこと』など数多くのことを学んだ。そして心に宿った『一高魂』。50歳を過ぎた今もその精神は私たちの胸の奥にひっそりと生き続けている。

今回、あの時の恩返しをするため、私たち平成4年卒が佐久穂検印所を全力でサポートさせてもらった。

（平成21年卒はサブ幹事として参加）

あの時の恩返しをする時がきた

私たち平成4年卒は96回目の強行遠足で「佐久穂検印所」をサポートする大役を任された。同窓会当番幹事として活動を進めるなかで最初の大仕事。事前に学年同窓会や親睦会などを開催して参加を呼びかけた。『強行遠足』…。その響きに、高校時代の懐かしい記憶が蘇り、佐久穂検印所へと導かれた仲間は、県内各地や東京近郊などからの参加者も含め総勢51名。（平成21年卒10名含む）

我々は前年、強行遠足のお手伝いなどを経験した後、6月に強行遠足部会を立ち上げ、学校での協力者会議や現地視察など事前準備を入念に行ってきた。そして迎えた当日の午後10時、佐久穂検印所に同級生が大集合。普段から顔を合わせている面々、33年ぶりに再会する者、当時は全く接点がなかった間柄など、関係性は様々だが『同級生』と『強行遠足』の共通項で月日の流れを感じることもなく、すぐに打ち解けることができた。

10月上旬の佐久穂の夜は少し肌寒く、澄んだ空気が体を包み込み、凛とした気持ちにさせてくれた。生徒をしっかりと安全に誘導していく任務を果たすために、検印所や誘導拠点9カ所に分かれてサポートを開始した。

清里から野辺山、松原湖、そして小海へ…。さらには佐久穂、臼田を経由して小諸まで…。私たちも歩んできたこの道を見つめると、あの頃に時間が巻き戻ったような不思議な感覚になり、当時の強行遠足に思いを馳せた。また、生徒の通過がない時間帯には、旧友と静寂の夜空を見上げ語り合い、知らぬ間に夜明けを迎えていた。

各拠点には、深夜に颯爽と駆けていく生徒や仲間と励まし合いながら進む生徒、明け方に力強く歩みを進める生徒や前進停止間際に「次の臼田までは…」と佐久穂を後にする生徒など、様々な状況の生徒がやってきた。そんな彼らを誘導しながら、「頑張ってね」「もう少しだよ」「お疲れさま」と必死に声をかけ続けた。

私たちは今回の「佐久穂検印所」のサポートに参加して、我が子ほど歳の離れている生徒から多くのことを学んだ。生徒の強行遠足に向き合う姿に最大級の『リスペクト』の気持ちをみんなが持ったであろう。

私たちの年代は、会社でも家庭でも難しい立ち位置で重要な決断を強いられるケースが多くある。私たちの心にも宿っている『一高魂』に再び火を灯して、生徒に負けないように前を向いて日々新たな『一足』を踏み出して行かなければと感じた。

さらに、裏方として準備を行うなかで、学校関係者、PTA、同窓会などが連携して千人規模のサポート体制で運営する強行遠足のスケールの大きさを実感した。甲府一高の伝統と誇りの象徴である『強行遠足』。その舞台に再び戻ってくることができて、感謝の気持ちでいっぱいになった。

最後にあくまでも筆者の個人的な意見であるが、私たちが高校2年生の強行遠足は台風による延期ではなく『中止』であった。実施要項には『雨天順延』とあり、翌日は晴天であった。その時に大人たちに怒りの声を上げ説明を求めたところ、理由は『サポート体制の確保が困難』とのことだった。『実施に向けて最大限可能性を探った』という大人の思いと『順延とあるのだから必ず行われる』という生徒の思いに大きな食い違いがあった。また、『順延』という言葉の定義が不明瞭であったと思う。今後も当時の議論は至る所で行われるだろうが、甲府一高の伝統行事『強行遠足』のさらなる発展のためにこれからも語り継いでいってほしい。

平成4年卒
大森 優子
（旧姓：雨宮）

生徒の一生懸命な姿に感動

開始時間の甲府は雨。ふと過去の悲しい思い出が頭によぎったが、開始の号砲を聞き安堵しました。その8時間後、私たち平成4年卒同窓生が佐久穂検印所に到着。久々に会った友人らと強行遠足の思い出話に花が咲きました。「お守りに『小諸到着』と書くところを『倒着』と間違えて書いて渡しちゃったのよね～」という笑い話や「初めてお守りをもらった子と付き合ったよ」という甘い話、「お守りもらったことない…」という切ない話などで盛り上がりました。2年生の強行遠足は台風の影響で前日に中止が決定。口惜しくも女子当日は快晴に。強行に出発した男子らは、先生の待ち伏せにあい撤退。先生の目を掻い潜り、無事に小諸到着の強者もいて、他校でも『幻の強行遠足』と伝説になりました。

検印所から各拠点の配置に着き、第1走者を待つ。ふと空を見上げると満点の星で素晴らしい環境に幸せを感じました。22時50分頃私のいる拠点をトップが通過、疲れも見せずに走っての通過はさすが3年生と目を見張りました。その後空が明らむ頃、体調に異変を見せる生徒らが出てきました。少し座って休む下級生、それを通りかかった上級生が声を掛け励ます。そんな光景を目にする場面が増えてきました。これこそ強行遠足の醍醐味、昔も今も変わらぬ光景。自分との闘いで孤軍奮闘するなか、お互いに助け励まし、新旧の友情が深まる。そして暗闇に響く応援団吹奏楽部OBの演奏、野辺山のしじみ汁、臼田のりんご、地域の方々の熱い声援等、これらはこの行事に欠かせない感謝すべき事柄。これらを引き続き、後世に継承していってほしいと思いました。関係者の皆様、甘くも切ない感動をありがとう！

平成4年卒
小橋 優子
（旧姓：飯沼）

メディカルスタッフとして参加

今回は、雨対策が勝敗を分けたといっても過言ではなかったと思います。雨に濡れることによる体温低下や雨具による体の蒸れ、夜間の気温低下がちょうど野辺山近辺にぶつかり、多くの生徒が不調を訴え強行遠足を断念せざる得ない状況に。さらに、靴擦れによる水疱形成だけではなく、靴が濡れたことと、汗による蒸れのダブルパンチで足底部皮膚がズル剥けする生徒が相当数いました。そのような生徒たちの靴下は薄くびしょ濡れでした。来年はこのような状況に対策を設ける必要があると痛感しました。

対策としては厚く通気性の良い靴下の装着（メリノウールの靴下など）や替えの靴下を持つこと、疲労による足のアーチ減少が予想されるのであらかじめアーチサポートの強いインソールを装着するなどが望まれます。撥水加工の靴、足の負担を軽減するトレッキングポールの使用もよいと思います。筋肉疲労には鎮痛薬の持参も効果的です。

サポート側の問題は、医師や看護師の不足です。可能であればもう少し増員できることが望ましいです。さらに巡回車に帯同し自由に診察できるドクターがいても良いと思いました。医療従事者同士のネットワークが築けると調子の悪い生徒たちの申し送りが容易になるでしょう。

加えて救急箱の充実も必要です。今回のように足底部のトラブルが多い場合、ガーゼやばんそうこうのように圧迫して痛みを和らげるものが数多く必要になります。予算の問題もあると思いますが、生徒の安全と天秤にかけるなら、大した出費ではないでしょう。以上、来年の強行遠足の参考になればうれしいです。

男子

第96回 強行遠足

2024.10.5(SAT)▶6(SUN)

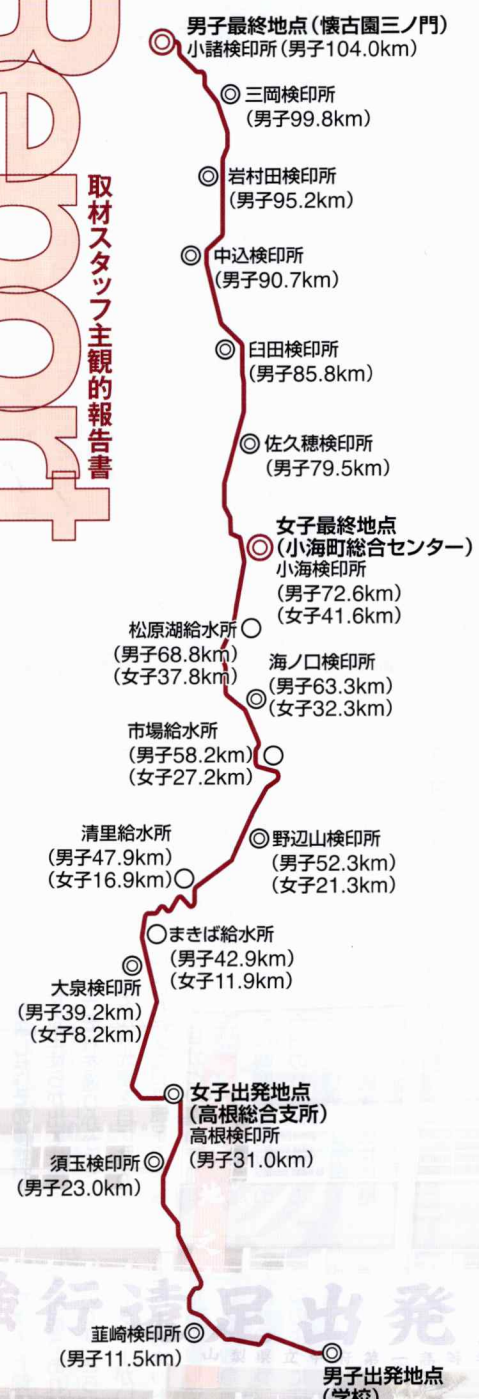
甲府一高～小 諸(懐古園 三ノ門)

104.0KM

Report

取材スタッフ主観的報告書

強行遠足全行程図



強くなるための試練

2024年10月5日の正午過ぎ、スタート前の最終点呼を受けるために、甲府一高体育館に男子生徒が続々と集まってきた。今回のエントリーは307名。取材した生徒は「強行遠足のために一高を受験した(1年)、去年の経験からトレッキングポールを購入した(2年)、悔いが残らないように20キロの山走りで鍛えた(3年)」とそれぞれの思いを語ってくれた。

校舎壁面には『贊天地之化育と質実剛健の懸垂幕』、校門前には『強行遠足出発点の横断幕』、駐輪場から校門には女子生徒が掲げる『応援メッセージ』と最高の演出が整うなかで、飯島清樹校長の号砲のもと3年生から順次、104キロ・約15万歩先への果てしない旅が始まった。

甲府市内から韮崎へと向かう沿道では、父兄や強行遠足ファンの声援に応えながら駆け抜けていく生徒の姿が多く見られた。また、夕方までは時折雨も強くなってきてレインウェアを身にまといながらの走りが続いた。

日没から夜更けにかけて多くの生徒が通過する[須玉検印所]から[まきば給水所]までの約20キロは、標高差が900m近くある急激な登り坂が続く難所。気温の冷え込みなども重なって疲れが出始める頃で、各検印所にやってくる生徒の表情も段々と険しくなっていった。

その先の[野辺山検印所]では、今回の強行遠足最大の試練が待ち構えていた。日付が変わる頃の清里付近は、辺り一面の濃霧と土砂降りの雨に見舞われて、低体温症など体調不良者が続出して、[野辺山検印所]では実に135名の前進停止者が出た。担当スタッフは当時の状況を『野戦病院』と例えていた。また、私たちが担当した[佐久穂検印所]でもトップの生徒が午後11時28分に通過して以降、その後はまばらで、午前3時30分を過ぎても6名の通過者しかいなかったことを考えると、いかに野辺山周辺が過酷な状況であったのか推測できた。

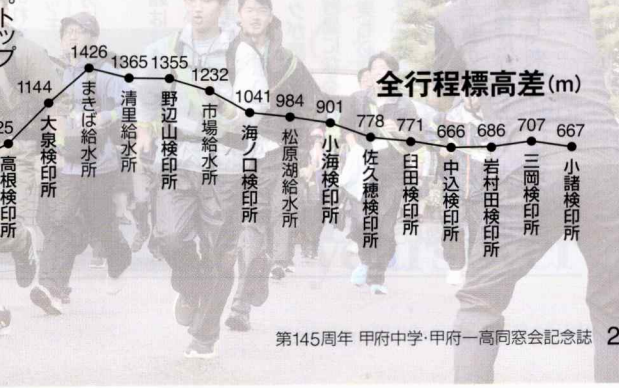
[佐久穂検印所]から先の臼田・中込・岩村田・三岡、そして小諸へと続く残り約18キロは、どの時間帯であっても生徒同士の距離も離れて一人旅状態になる。トップの生徒が通過した際も、誰もいない真っ暗な道を進んでいった。『孤独感』や『疲労感』からくる様々な思いが頭のなかをめぐり、自問自答しながら歩みを進めたことであろう。

深夜、男子のゴール地点である[小諸検印所]には、ひとつ手前の[三岡検印所]から昨年よりも早い時間でトップの生徒が通過したとの情報が。そのためゴールテープをスタッフが左右に広げて生徒を迎え入れるリハーサルなどが慌ただしく進められた。その後、小諸の各誘導拠点からも次々に生徒通過の連絡が入り、ゴール地点の緊張感も最高潮に達した。

午前2時38分『96回目の強行遠足』のその瞬間がついに訪れた。トップの3年生が小諸駅を右手に見ながら懐古園三ノ門へと下り、多くの拍手と歓声で迎えられるなか、両手を挙げて堂々たる姿でゴールテープを駆け抜けた。昨年もトップであった自身のタイムを1時間も短縮した圧巻の走りであった。

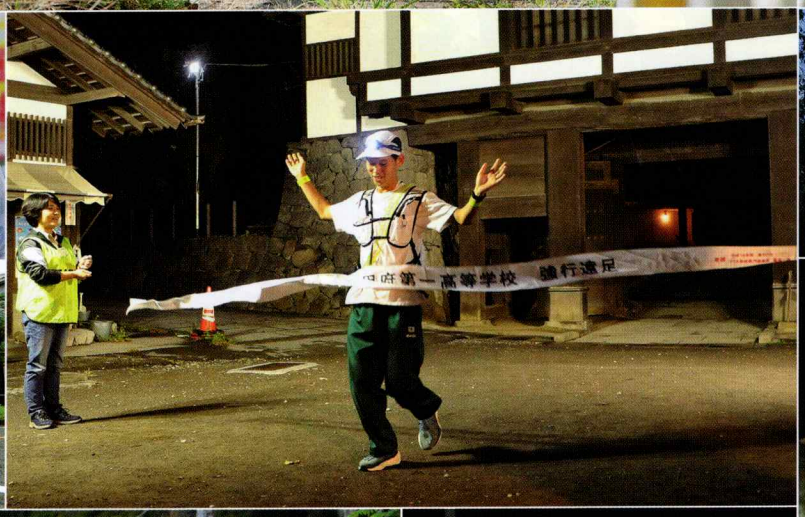
ゴール後に話を聞くと「1年生の時は3位、2年生では1位、そして今回も1位。6月に陸上部を引退した後もトレーニングを続け強行遠足に備えた」また、「踏ん張りどころは、まきば検印所付近だった。濃霧で視界が悪く体も疲れてきて、非常に辛かった。その先の野辺山検印所を過ぎてからは下り坂となり一気に波に乗れた」と語ってくれた。

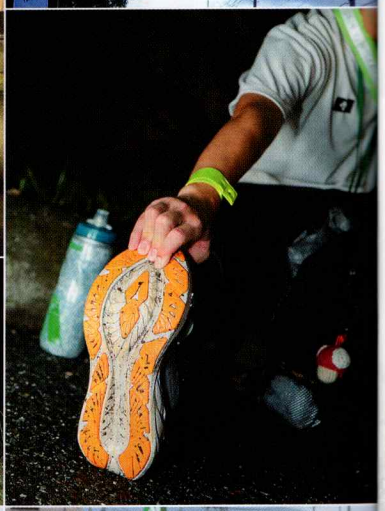
その後、2位の生徒がゴールしたのは2時間後だったことを考えれば、今回の男子強行遠足は1位の生徒の独走状態であったといえよう。

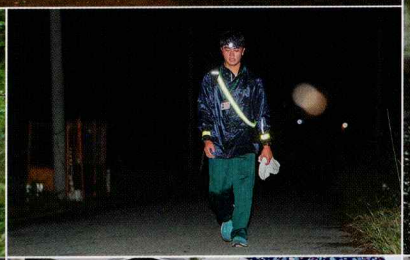


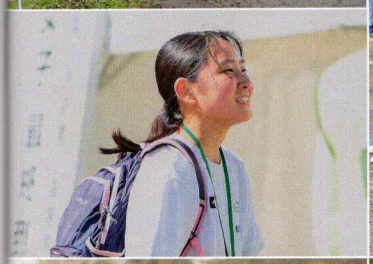
宿る瞬間

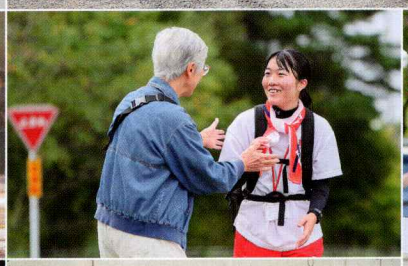
1年生の男子生徒とサポートスタッフ。小海検印所の前進停止時間は午前7時。その時間までに出発できなければ彼の強行遠足は終わってしまう。タイムリミット間際にサポートスタッフとともに次の佐久穂検印所を目指して歩みを進めるが、心身ともに疲労困憊で思うように動けない。それでも次の『一足』を踏み出そうとする彼の心のなかには、どんな困難にも立ち向かおうとする『高魂』が確実に宿り始めている。











視線の先に

強行遠足の経験が、生徒を大きく成長させる。あらゆる困難に直面した時、心のなかで葛藤しながら『自らで判断・決断をして、そして実行しなければならない』。3年間で成熟された『一高魂』は、彼ら彼女らの貴重な財産となり、今後の目指すべき世界へと導いてくれるだろう。

女子

第96回 強行遠足
2024.10.6(SUN)
高根総合支所～小 海(小海町総合センター)
41.6KM

強行遠足を満喫

10月6日の早朝、女子生徒321名が高根総合支所に集合した。

朝靄の隙間から、柔らかな光が静かに差し込むスタート地点では、初めての強行遠足に緊張している生徒や会話を楽しみながらストレッチをする生徒、円陣を組んで士気を高め合う生徒など微笑ましい光景が見られた。

午前7時に3年生から次々とスタートして41.6キロ先にある[小海町総合センター]のゴールを目指した。女子のコースは、各検印所の前進停止時間の間隔が短く、スピード感のある展開が求められる。特にスタート直後の[まきば給水所]までの約12キロは標高差700m。男子同様に急激な登り坂と向き合わなければならない。ある女子生徒は「前回の強行遠足では最初の10キロのペース配分がとても重要だった」と話してくれた。

コース内で標高が一番高くなる[まきば給水所](1426m)付近では、疲れのピークがやってくる。そのような状況で、遠くから聞き覚えのある曲が…。まきば公園では應援團と吹奏楽部のOBの有志が、生徒を勇気づけるために校歌や応援歌などを演奏していた。また、生徒が通過する際に應援團が生徒個人の名前を呼んでエールを送る『粋』な計らいがあり、生徒も「とても元気が出て嬉しかった」とニッコリ。伝統行事『強行遠足』を支える多くの同窓生の熱い思いを感じた瞬間であった。

この辺りは、登り坂ゆえに歩きながら体力の温存をする生徒も多く見られた。清里の秋景色を楽しみつつ、友だちと語らい、手を握って励まし合い、撮影にも気さくに応じてくれ、強行遠足を存分に満喫している生徒の笑顔や所作に触れることができた。

[野辺山検印所]は午前10時30分までに先頭集団の4～5人が通過、名物のしじみ汁で体を温めて小休止した後、その先を生徒たちは急いだ。曇り空から小雨が舞い落ちて涼しくも感じられ、[市場給水所]を経由して国道141号線を一気に駆け降りる[海ノ口検印所]までの約11キロを走るのにはベストなコンディションかと思われたが、しかし、そこはやはり『強行遠足』。正午にかけて気温も少しずつ上がり、太陽の日差しを背中に感じながら体力も消耗していく環境へと一変した。

午後12時26分、[小海町総合センター]にトップの生徒がやってきた。山岳部の3年生という彼女は充実感に満ちた笑顔でゴールテープに身を委ねた。ゴール後にしばらく飯島校長と談笑していたが、5分後に出発するという帰りのバスに走って飛び乗った姿には、若さあふれる高校生の無限のパワーを感じた。

さらに、午後12時47分には2位の陸上部の3年生もゴール。「昨年は1位だったけど、2位になっちゃいました」と少し悔しそうだったが、「昨年は悪天候のため野辺山で中止になった分、今年は思いっきり楽しみながら走れた」と晴れ晴れとした表情で話してくれた。

スタートからゴールまでふたりで走った2年生コンビは、手を繋ぎながら3位でゴール。「暑くなってきてラスト10キロの海ノ口から松原湖の区間が一番きつかった。バテました。でも、松原湖給水所を出発する時にかけてもらった声援がラストスパートへの原動力になり、残りの4キロは体が軽くなり、ゴールまでの道のりを楽しめました」と話してくれた。

いくつものドラマ

今回の取材を通して強行遠足の感動的な場面をいくつも見せてもらった。トップで力強くゴールする生徒はもちろん、昨年の記録を超えようと頑張る生徒、ひとつでも先の検印所を目指そうとする生徒、志半ばで断念をせざるを得ない生徒など、いくつものドラマがあったが、取材中に出会った2人の生徒を紹介したい。

前進停止時間が迫る[佐久穂検印所]手前で、疲労と睡魔で動けずに放心状態で座り込んでいる男子生徒がいた。検印所間を学校の救護車が往来している時間帯であり、見るからにもう動けないだろうと思い「救護車、呼ぼうか?」と声をかけた。その生徒は黙って首を横に振り、両膝に手を添えて震える両脚でしっかりと立ち上がり「僕、行きます」と一言。

否定からの話をした自分自身をとても恥ずかしく思った。彼の強い気持ちを感じながら、歩き出すその背中を見つめ涙が込み上げてきた。

また、[松原湖給水所]手前の海尻洞門付近で女子生徒が「座ってもいいですか?脚がもう動かないんです」と靴紐も解けた状態で声をかけてきた。見ず知らずの私に声をかけてくるのだから、よほど心細く誰かに自分の現状を訴えたかったのであろうと察した。安全な場所に座るように勧めると、自らのふくらはぎを念入りに揉みほぐしていた。しばらくして落ち着きを取り戻すと、次第に時間を気にし始めた。彼女は「今って何時ですか?15時15分までに松原湖に着きたいんです」とぽつり。それは松原湖給水所の前進停止時刻であった。時計の針は14時24分。海尻洞門から松原湖までは約1キロ、あと1時間弱。普通に歩ければ十分に間に合う時間であるが…。

その後、彼女は意を決して立ち上がった。初めての強行遠足、まだ見ぬ場所[松原湖給水所]へと向う小柄な彼女がとても大きく見えた。

この2人は自分自身の意思とその両脚で『一足』ずつ大地を踏み締めながら歩いていった。目指すべきそれぞれのゴールへときっと辿り着いたであろう。

第96回 強行遠足集計一覧

男子小諸	参加数	307	(1年:109	2年:88 3年:110)
	到着者数	109	(1年: 16	2年:41 3年: 52)
	到着率	35.5%	(1年:14.7%	2年:46.6% 3年:47.3%)
女子小海	参加数	321	(1年: 98	2年:110 3年:113)
	到着者数	238	(1年: 59	2年: 82 3年: 97)
	到着率	74.1%	(1年:60.2%	2年:74.5% 3年:85.8%)

第65回 強行遠足集計一覧(平成4年卒3年時)

男子小諸	参加数	541	(1年:177	2年:171 3年:193)
	到着者数	257	(1年: 63	2年:75 3年:119)
	到着率	47.5%	(1年:35.6%	2年:43.8% 3年:61.6%)
女子小海	参加数	544	(1年:173	2年:174 3年:197)
	到着者数	318	(1年: 77	2年:104 3年:137)
	到着率	58.5%	(1年:44.5%	2年:59.8% 3年:69.5%)

秘伝レシピはPTA調理部へ

太平洋戦争の食糧難の時代でも振る舞われていたしじみ汁。1961(昭和36)年に一高の食堂『日新ホール』が落成以来40年間、主人であった丸山良雄氏がしじみ汁の準備を担当。また、岡部勝雄氏も小諸方面へのコース変更以降、野辺山本部設営の大仕事を担当しながら、丸山氏とともにしじみ汁を生徒に提供し続けた。

現在もその熱意と強行遠足の味・しじみ汁の秘伝レシピは、PTA調理部へと受け継がれ、野辺山へ到着した生徒の疲れを癒している。

Interview

野辺山検印所

PTA調理部長 東條 小百合さん

生徒全員に感謝

PTA調理部6名のスタッフで、当日の夕方4時からしじみ汁の準備を始めた。しじみは島根県宍道湖産20kgを旨味が凝縮するように一度凍らせて、味噌は岡谷市の松亀味噌(赤と白)を各10kgずつを使用する。また、疲労回復が見込めるミネラル分の多い塩を隠し味に使うと甘みが増すらしい。調理部長の東條さんは、どの生徒にも『野辺山まで来てくれてありがとう』という気持ちでしじみ汁を手渡すそうだ。また、一高卒のPTAスタッフは鍋の火加減を調節しながら「昔からこんなに苦労して作ってくれていたんだね」と懐かしそうに話してくれた。

受け継がれる 伝統の儀式

※甲府中学・甲府一高 創立140周年事業『強行遠足の沿革』パネル(1階廊下に掲示)を参考に加筆させていただきました

臼田のりんごは絶やさない

1963(昭和38)年に強行遠足が小諸方面に変更以降、臼田検印所は同町内で酒屋を営む依田寿倭次氏一家のご好意によって支えられてきた。寿倭次氏の亡き後も奥様のトミ子さんがその意思を継ぎ、『塩むすび』や『牛乳』、『りんご』などを用意をしてくださり、一高生から『臼田のおばあちゃん』と慕われていた。

現在では依田さんの親族の思いと共に、学校が用意したりんごを国道沿いに変更になった臼田検印所(雨宮病院)で男子生徒に配られている。

Interview

臼田検印所

平成20年卒 廣島 由佳さん(写真右)

これが臼田のりんご

数年前から臼田検印所(雨宮病院)の運営サポートは平成3年卒と平成20年卒の卒業生が担当している。初めてお手伝いに参加した廣島由佳さん(平成20年卒)は、「私たちの時代は野辺山までのコースだったので、話に聞いていた臼田のりんごに関われて嬉しい」と微笑みながら、スタッフとともに約200個のりんごを丁寧に磨き、明け方にかけてやってくる男子生徒に配る準備を進めていた。

令和の時代になった今も『お守りをもらった女子にりんごを渡して、アップルパイにして2人で食べる?』という伝説が語り継がれている。

一高 Rookie

これが強行遠足、伝統のチカラ

赴任1年目の強行遠足。15時14分、脚を引きずりながら松原湖の給水所に入ってきた女子生徒が「前進停止1分前です」という声に頷き、前だけを見て小海を目指した背中を今も思い出します。大学を卒業して初任校が一高だった私にとって、強行遠足は『未知』のものでした。夜を越え、山を越え、ただただ歩き続ける彼らのことを想像できないまま、当日を迎えたように思います。

しかし、当日私が見た光景は『ただただ歩く1日』ではなく『日々の生活で大切にしたいことに気づく1日』でした。湯村温泉付近で沿道や家の2階から応援してくれる地域の方の温かさ、真っ暗な夜道を照らしてくれる家族の優しさ、入念に計画を立てて臨むこと、時に計画通りにいかない時も臨機応変に対応する力、支え合う友の尊さ。そして冒頭の彼女のように諦めずに前に進むこと。日々の業務に手一杯で見落としていたかけがえのないものに、そして教員として忘れてはいけないことに気づかせてくれました。

3年目の今年、最高学年の担任として見る彼らの姿はさらに頼もしく、3回の強行遠足の経験がこの先の人生を生きる強さとなり、明るい未来に向かい歩き続ける一高生の姿をまぶしく、羨ましく思います。そして、教員としても学び多きこの強行遠足が、末永く一高と共に歩み続けていくことを心より祈念しております。

甲府一高 教諭
廣瀬 久実

映画になりそうな ちょっといい話

平成4年卒 石川　治

時間を取り戻すために この場所へ再びやってきた

中学時代は陸上部の長距離の選手で、父と兄も一高OB。強行遠足に憧れて私も一高へ進学し、強行遠足での完走と、朝6時半にゴールの小諸から出る一番列車に乗ることが夢でした。

しかし、私は3年間一度も完走どころか強行遠足のスタートラインに立つことすら出来ませんでした。理由は健康診断での不整脈。過去にも不整脈の診断をされたことがありましたが、特に運動制限もされませんでした。その時は、2回目ということもあり精密検査のため慈恵医大の心臓外科へ。結果は『僧帽弁逸脱症』。マラソンと水泳が制限されました。どうしても参加したいと懇願した私を説得した担当医師は南高OBで、一高の強行遠足に憧れていた方でした。「もし何かあったら強行遠足が存続できなくなる可能性も考えて!」の一言で強行遠足の歴史と伝統の重さに気づきました。

強行遠足の当日、学校の図書館での自習は本当につらい時間でした。2年生の時は台風の影響で強行遠足自体が中止。3年生、最後の強行遠足。もう学校の図書館には行きませんでした。

写真が好きだった私は、どうしても現地に行ってみんなを撮りたくて電車で小諸へ。その時の写真は今でも大切な宝物です。卒業後も強行遠足の話題は常に身近にあります。その度に『叶わなかった夢』が顔を出します。

あれから33年経った2024年、ついに強行遠足に参加する夢が叶いました。

あの頃好きだった写真が今では職業に。プロのカメラマンとして33年前と同じあの場所で。

息子たちが 私と同じ道を歩んでくれた

私は平成4年に一高を卒業し、18年前に双子男児の母になった。双子の育児は大変だったが、その数倍、楽しめている。そして今、成長した彼らは甲府一高に通い、3年生になった。

思えば、高校受験の時、最終的に『一高を受験する』とそれぞれが決めたことは、私自身一高卒業生として純粋に嬉しかった。私たちの時代(総合選抜)とは違い、今の子どもたちは一高を選んで受験する。それには少なからず理由や目的がある。息子たちの理由のひとつには『強行遠足』があった。二人ともあの過酷な強行遠足に「挑戦したい」と言っていた。これには驚いたが、強行遠足を知る一人として、その言葉が誇らしかった。

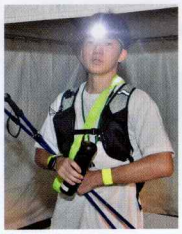
1年目、初めての強行遠足。二人とも今まで味わったことのない過酷さを目の当たりにした。結果、双子の兄はゴールしたものの、そのまま倒れこみ、車椅子で運ばれるほどの限界を経験した。弟は足の痛みから小海でリタイヤ。兄は歩けない状態になりながらも完走したことを知り、自分はリタイヤして一高から自転車に乗って家に帰っていることを悔しがり、来年は絶対に完走すると決意を新たにしていた。

翌年、二人は『昨年の自分を超える』ことを目標として、強行遠足のために筋トレやランニングをしたり、高根から野辺山、小海から小諸までの区間を実際に走ったりと対策をしてから強行遠足に挑んだ。その甲斐あって、2年3年とタイムを更新し、完走した。

そんな過酷な思いをしても二人は口を揃えて「強行遠足は楽しい」と言う。「もちろんきついけど、それはみんな同じ、自分だけじゃない。それを踏ん張って、友達とも励まし合って、出来るだけ上を目指していくこと、勝負していくことが楽しかった」「こうして自分の限界に挑む機会として、数百人という規模でやらせてもらえるのは貴重な体験だと思う。感謝している」と。

うちの子に限らず、一高で強行遠足に対して、本気で挑戦した子たちが得たこの経験は、これからの人生においても大きな力となってくれることだろう。強行遠足は自分との戦いであるが、その中で仲間の大切さ、支援してくれる方に感謝する気持ちも芽生える特別な伝統行事であることを今、再認識している。

今回、私も同窓会実行委員として『一足』を踏み出した。一高魂があるからこそ、何十年経った今でも団結できるのだと思う。一高OBとして、この一高魂は持ち続けていたいし、息子たちにも持ち続けてほしいと願う。



平成4年卒 N.S

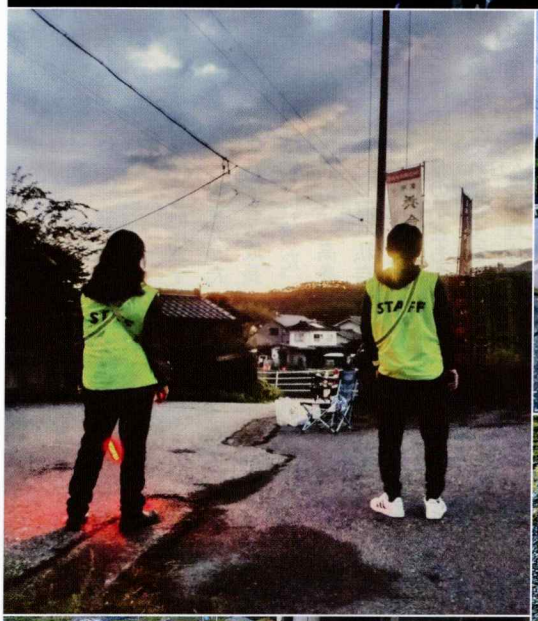
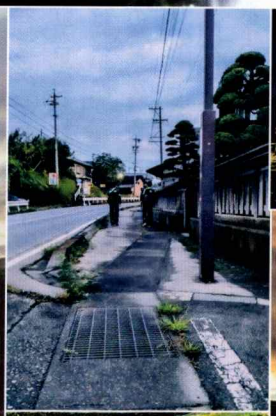
確かこの道を僕も歩いたような気がする
誰と一緒だったっけ？

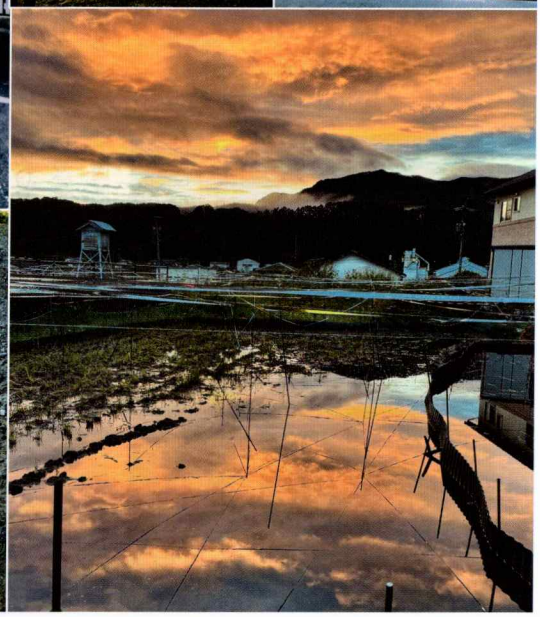
ジャージ姿で前に進む生徒たちは、ズタズタのボロボロで輝いてる
僕もこんなふうにまぶしい存在だったことがあるんだと気付いて驚いた
自意識過剰で世間知らずなあの頃の言動すべてが、恥ずかしかった
けど違ったんだな

東の山ぎわが明るくなっていくのを、50歳過ぎて同級生と眺めると
タイムスリップできるらしい
あいつの声と言葉が
ゴールまで絶対に行くんだと唱え続けて吐きそうになったことが
見慣れない道と湿った土の匂いが
焦りなのか不安なのか興奮なのかわからない噛みつぶした涙が
何も考えられなくなって、動かない足を一歩、ただ出して出して出したことが
パーセク単位で広がっていく

この道を歩いたのは確かに僕だ

Thanks
強行遠足



第46回全国JOCジュニアオリンピックカップ
春季水泳競技大会
第47回全国JOCジュニアオリンピックカップ
夏季水泳競技大会
15、16歳女子 200メートル背泳ぎ 優勝

現役一高生特別インタビュー

平嶋 亜沙美さん

目指す舞台は世界！ 一高マーメイド Mermaid

4年後、あの舞台に立つために
水泳も勉強も一生懸命頑張ります

甲府一高の現役高校生の平嶋亜沙美さん。2024年3月（春季大会）と8月（夏季大会）に開催されたJOCジュニアオリンピックカップ15、16歳女子200m背泳ぎで見事日本一に輝きました。また、2024年度に開催された高体連主催大会の県予選では圧倒的な強さで背泳ぎ100m・200mともに優勝。全国インターハイでは同種目での上位入賞を果たしました。今回の取材では水泳との出会いや高校生活の様子、将来のビジョンなどを語ってくれました。

幼少期は どんなお子さんだったんですか

私の名前、亜沙美は両親が『明るい子に育ってほしい』という願いを込めてつけてくれました。イメージ的にもこの漢字が一番にぴったりだと思ったそうです。私自身もすごくこの名前が気に入っています。

小さい頃の私は今とは違って、かなり引っ込み思案な感じで、人の後ろに隠れてついていくような子供でした。でも、小学校の高学年ごろから少しずつ積極性が生まれて、何をする時にも自分が先頭に立って、みんなをリードしていけるようになりました。

下には弟が2人と妹が1人います。私は4人きょうだいの長女なんです。普段はケンカばかりしていますが、ここぞという時にはまるで『女王様?』に従うかのように私の言うことをよく聞いてくれます。ケンカもするけれど、やっぱり慕われているなと感じる瞬間も多いですし、とても可愛い弟や妹です。

県勢・平嶋 200背優勝

大森(100平)細野(200バタ)県高校新

第47回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会15、16歳女子200㍍背泳ぎで優勝した平嶋亜沙美（甲府ジュニア）＝東京アクアティクスセンター

JOCジュニア競泳

競泳の第47回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季大会は22～26日、東京アクアティクスセンターで行われ、山梨県勢は女子15、16歳200㍍背泳ぎで平嶋亜沙美（甲府ジュニア）が2分14秒74で優勝した。このほか、男子15、16歳100㍍平泳ぎで大森理央（フィッツ青葉）が1分2秒37で県高校新をマークし準優勝、男子チャンピオンシップ（18歳以下）200㍍バタフライで細野泰聖（フィッツ青葉）が県高校新の1分59秒83で3位だった。

〈山梨県勢の記録〉

【男子】◇10歳以下▽50㍍自由形予選 ⑪皆川龍聖（ルーアース南アルプス）29秒88＝落選▽50㍍背泳ぎ予選 ㉖皆川龍聖（ルーアース南アルプス）34秒60＝落選 ◇11、12歳▽50㍍バタフライ予選 ㉙大谷虹朗（アクアリラ都留）28秒58＝落選 ◇13、14歳▽50㍍自由形予選 ㉒平嶋蒼大（甲府ジュニア）25秒09＝落選▽200㍍自由形予選 ⑱浅野梨仁（ルーアース南アルプス）1分2秒68＝落選▽400㍍自由形予選 ⑭浅野梨仁（ルーアース南アルプス）4分9秒11＝B決勝へ▽同B決勝 ①浅野4分6秒96▽100㍍平泳ぎ予選 ㊺深井悠公（フィッツ青葉）1分8秒71＝落選▽100㍍バタフライ予選 ㊽安富京佑（アクアリラ都留）1分0秒34＝落選 ◇15、16歳▽200㍍自由形予選 ⑰小島温史（山学GALAXIES）1分54秒87＝落選▽100㍍平泳ぎ予選 ②大森理央（フィッツ青葉）1分2秒83＝決勝へ▽同決勝 ②大森1分2秒37＝県高校新▽200㍍平泳ぎ予選 ③大森理央（フィッツ青葉）2分16秒94＝決勝へ▽同決勝 ④大森2分15秒40 ◇チャンピオンシップ（18歳以下）▽50㍍自由形予選 ⑨八木野航平（フィッツ竜王）23秒62＝落選▽100㍍自由形予選 ⑦八木野航平（フィッツ竜王）51秒49＝決勝へ▽同決勝 ⑥八木野51秒26＝県高校新▽200㍍自由形予選 ⑱八木野航平（フィッツ竜王）1分53秒17＝落選▽200㍍バタフライ予選 ④細野泰聖（フィッツ青葉）2分1秒97＝決勝へ▽同決勝 ③細野1分59秒83＝県高校新▽400㍍メドレーリレー予選 ㊷フィッツ青葉（三品陽人、大森理央、細野泰聖、山田庵璃）3分56秒41＝落選

【女子】◇10歳以下▽50㍍平泳ぎ予選 ㉘平出杏（フィッツ甲府）38秒17＝落選▽50㍍バタフライ予選 ㊱平出杏（フィッツ甲府）32秒68＝落選 ◇11、12歳▽100㍍平泳ぎ予選 ㊸広本紗也（ルーアース南アルプス）1分20秒26＝落選▽200㍍個人メドレー予選 ⑲広本紗也（ルーアース南アルプス）2分29秒14＝落選 ◇13、14歳▽100㍍背泳ぎ予選 ㉔深井彩心（フィッツ青葉）1分7秒27＝落選 ◇15、16歳▽100㍍背泳ぎ予選 ⑤平嶋亜沙美（甲府ジュニア）1分3秒57＝決勝へ▽同決勝 ⑥平嶋1分3秒57▽200㍍背泳ぎ予選 ④平嶋亜沙美（甲府ジュニア）2分17秒23＝決勝へ▽同決勝 ①平嶋2分14秒74 ◇チャンピオンシップ（18歳以下）▽100㍍平泳ぎ予選 ⑭浅野梨仁（ルーアース南アルプス）1分12秒69＝落選▽200㍍平泳ぎ予選 ⑨浅野夏梨（ルーアース南アルプス）2分34秒39＝落選▽200㍍バタフライ予選 ⑬小林杏里（フィッツ青葉）2分17秒93＝落選

第47回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会 15、16歳女子200メートル背泳ぎで優勝【2024.8.29 山梨日日新聞掲載】

水泳を始めたきっかけは

水泳との出会いは4歳の時ですが、自分からやりたいと言った訳ではなく、両親の薦めでした。当時の私は、アレルギー性鼻炎や小児ぜんそくにより体調を崩すことが多く、それを治すために水泳を始めたんです。最初は水に顔をつけるのが怖くて、泳ぐのが本当に嫌いでした。水泳に行く日には毎回泣きじゃくっていましたが、両親に引きずられるように連れて行かれていました。今では家族全員が水泳に携わっていますが、当時は本当に辛かったです。

甲府市内のスイミングスクールに通っていた時期もありましたが、今は両親がコーチをしている甲府ジュニアというクラブチームで泳いでいます。私が中学生になるタイミングで競泳経験のある両親が私のためにボランティアでコーチを始めてくれました。小学6年生までは毎日1時間半の練習でしたが、中学生になってからは2時間泳いでいます。その前に30分の筋トレもやっています。正直なところ、今日はなんだか気乗りしないなということもよくありますが、休まないで頑張り続けています。

なぜ背泳ぎを専門に

小学校の時はクロールを得意種目としていましたが、小学校3年生の時に初めて参加した遠征でクロールと背泳ぎの2種目に出ることになりました。その経験がきっかけで、背泳ぎにも興味を持つようになりました。4年生に上がる頃には全国大会を意識し始め、その時の全国標準記録に一番近かったのが背泳ぎでした。小学生のうちはずっと背泳ぎを続けました。

中学に入ってからは他の種目にも挑戦しましたが、やっぱり背泳ぎとの相性が自分の中で一番良くて、しっくりきたという感じでした。それ以来、背泳ぎにこだわって練習を続けています。背泳ぎは誰にも負けたくないという気持ちが強いです。

進学時に甲府一高を選んだ理由は

中学校に入って高校進学を考え始めた頃には、一高や他の学校なども含めていろいろと検討しました。一高は家から近く、父の母校でもあったためオープンスクールに参加しました。そこで学校の話を聞いたり、学校生活の様子をイメージするなかで一番楽しそうだったので一高に惹かれ、進学したい気持ちが芽生えました。同じ中学校から進学した友達もたくさんいましたが、入学後にも新しい友達がたくさんできました。

いくつもの大会で活躍されて上位入賞されてますね

高体連主催以外の大会にもたくさん参加しています。クラブチームの甲府ジュニアの所属として、2024（令和6）年3月の全国JOCジュニアオリンピックカップ春季全国水泳競技大会では、最後のタッチ勝負で競り勝ち優勝しました。その大会は、短水路という25メートルプールを7回ターンして200メートル泳ぐ競技でした。短水路はターンの回数が多いので、不得意な選手はタイムロスにつながりますが、その大会ではターンが全部うまくいきました。また、8月の夏季水泳競技大会でも優勝することができました。

その他、高校総体などの県大会でも、100メートル、200メートルともに優勝。夏の全国インターハイでも上位入賞をしました。私はスプリント力がないので、スピードだけが勝負の100メートルよりも、スピードに加えて、持久力も求められる200メートルの方が得意です。得意といっても県外にはライバルがたくさんいます。県内外の選手と交流して切磋琢磨しています。

第46回全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会
15、16歳女子200メートル背泳ぎで優勝

普段の学校生活や休日の過ごし方はどんな感じですか

普段の学校生活は普通だと思います。授業をちゃんと受けて、昼休みは友達とおしゃべりしています。水泳の練習は夜なので、土日の昼間や練習のない月曜日は友達と遊びに行ったり、家でゴロゴロしたりしています。実は、すごく寝るのが好きなんです。最近は（取材時令和6年11月）、もうすぐ修学旅行で沖縄に行くので、班行動でどこに行くか、同じ部屋の友達と夜何をするかなどの話で盛り上がっています。修学旅行では、友達と思い出をたくさん作りたいと思っています。

強行遠足と水泳の共通点はまた、強行遠足から学んだことは

走ること自体が水泳につながると思っています。足腰を鍛えるために、よく登校前に走っています。また、強行遠足の練習も1ヶ月以上前から体育の授業で行われたんですが、それも水泳のトレーニングに役立ちました。

2023（令和5）年は、強行遠足は途中の野辺山で雨天中止になってしまいました。後半勝負だと思って前半をセーブしていたのでとても残念でした。

今年は最初から飛ばしたので、最後は本当にきつくて。でも、水泳の大会でも、最後に諦めたら負けてしまうし、最後まで諦めないことが結果につながるというところが、強行遠足も水泳も共通していると思います。

今年は最後まで走れたけど、練習も含めてこんなに辛かったことは今までになかったなと思っています。何か辛いことがあったり、大きな壁にぶつかったりしても、「まあ強行遠足を完走できたんだから大丈夫」と思えるようになりました。大抵のことは強行遠足よりも楽だと思って頑張れます。

強行遠足の経験があれば、どんなことにもチャレンジできます

将来の夢や目標を聞かせください

今、すごく悩んでいます。水泳だけが人生ではないと感じることもあり、いろんな可能性を考えながら、水泳と学業の両方を頑張っていきたいです。大学受験もあるので、今後はさらに勉強にも力を入れていきたいです。

水泳については、同世代の選手たちとは戦えるようになってきましたが、シニアの大会でも結果を残せるようにもっと練習したいと思っています。今の自分の力では全然足りないと感じています。将来的には、オリンピックの舞台で戦える選手になりたいです。

それから、親元を離れて視野を広げたいという思いもありますが、山梨の居心地がすごく良くって。山梨が好きなんです。

将来に向けてたくさん悩みながら、進路を決めていきたいと思います。

平嶋亜沙美さんを取材するのは、強行遠足を3位でゴールした際にコメントをもらって以来2回目でした。その時もおっとりした感じの普通の女子高校生という印象でしたが、今回の取材も序盤は失礼ながら『トップアスリート』を思わせないくらいニコニコしながら話してくれました。

しかし、水泳や将来のビジョンの話になると、表情や言葉の端々に剛さを感じる場面があり、同行したカメラマンも『幼さ』と『大人っぽさ』の両方の表情があると驚き、我々は彼女から秘めたる強い意志とプライドを感じました。

4年後、あの舞台で人魚姫のように優雅に泳ぐ亜沙美さんをぜひ観てみたいです。彼女ならきっとその姿を魅せてくれると思います。

大会で獲得したメダルのほんの一部と2024年5月に任命された次世代甲府大使の認定証

歴史の証人

旧校舎、最後の卒業生

筆者が大学1年時に、解体を直前に控えた旧校舎をフィルムカメラで撮影して、自ら暗室で紙焼きにしたもの。

昭和3年に西山梨郡千塚村（現 甲府市美咲）に建てられた、当時県下一モダンな建造物と賞された甲府一高の旧校舎。以来64年の間、この場所へ2万数千人の生徒が集い、学び、そして語らいだ。

平成4年3月2日（月）、まだ肌寒さの残る曇天の日に同級生401名は卒業式を迎え、日新鐘の鳴り響くなか、私たちの思い出が刻まれた甲府一高の旧校舎から『未来への一足』を踏み出した。

『歴史の証人　旧校舎最後の卒業生』は、甲府一高資料室に保管されている、先輩方が編集作業を行った貴重な資料を参考文献とさせていただき、独自の取材などを追加して執筆いたしました。甲府一高旧校舎の歴史を語り継いでいくために、当時、編集に携われた皆様のご理解をいただきたくお願い申し上げます。誌面上で謝意をお伝えさせていただく事を何卒ご了承ください。

旧校舎以前の歴史

甲府一高は、寛政年間に徳川幕府が甲府城南側に設置した甲府学問所を前身とする官学徽典館を始まりとし、幾多の変遷を経て1880（明治13）年に『中学校則』の制定に基づき、山梨県中学校として師範学校内【甲府市錦町（現 甲府市中央一丁目）】に併設された。10月23日に開校式を挙行し、この日を創立記念日とした。

その後も、当時の『学校令』や『中学校令』などにより、校名を山梨学校、徽典館、山梨県尋常中学校、山梨県中学校、山梨県第一中学校、県立山梨県第一学校とし、1900（明治33）年には、甲府市錦町（現 甲府市中央一丁目）から甲府城跡地へと新築（通常教室・特別教室・講堂・寄宿舎などが備わった）移転した。1906（明治39）年には、山梨県立甲府中学校（第7代大島正健校長）へと改称した。また、創立以来存在していなかった校旗をこの時に制定した。

明治から大正にかけて25年間を同所で過ごしてきたが、生徒数の増加や校舎の老朽化問題なども次第に深刻化していた。同時に山梨県庁舎に関しても老朽化による改築が議論され、1926（大正15）年に、県議会で甲府城跡地への『県庁と県会議事堂』の建設が、また、『甲府中学校』の西山梨郡千塚村（現 甲府市美咲【現在地】）への移転が決定した。

旧校舎の誕生

旧校舎は、県土木部土木課の技師がリーダーとなり4～5人のグループで設計に当った。また、本館の中央部分は東大の安田講堂を参考にしたとのこと。（当時の金額で建築総工費は30万675円79銭）

『設計者は誰か？』という論争が常にあったそうだが、平成の時代になって設計に関わった県職員が判明し、当時の詳細が明らかになった。

1928（昭和3）年7月には、すべての工事が終わり移転することとなった。連日、甲府城の校舎から千塚村の校舎へ各自の机を持って引っ越しをする生徒の長い列が、朝日通りを行

正面入口から右手に続く廊下、
事務室や職員室を抜け体育館へと続く

き来する光景が見られた。

また、千塚村への校舎移転を機に、第10代江口俊博校長によって、『古い伝統のなかにあってそれを忘れず、しかも日々に新たな向上と発展を求めよう』との思いから、校舎屋上に『日新鐘』が設置された。（鋳造は1926（大正15）年の甲府城校舎時代 高さ60センチ、外径40センチ）

その後、激動の戦前戦中時代を乗り越え、1948（昭和23）年、戦後の『学制改革』により山梨県立甲府第一高等学校と改称し現在に至る。

正面玄関を入るとギリシャの世界遺産のような石造の佇まい

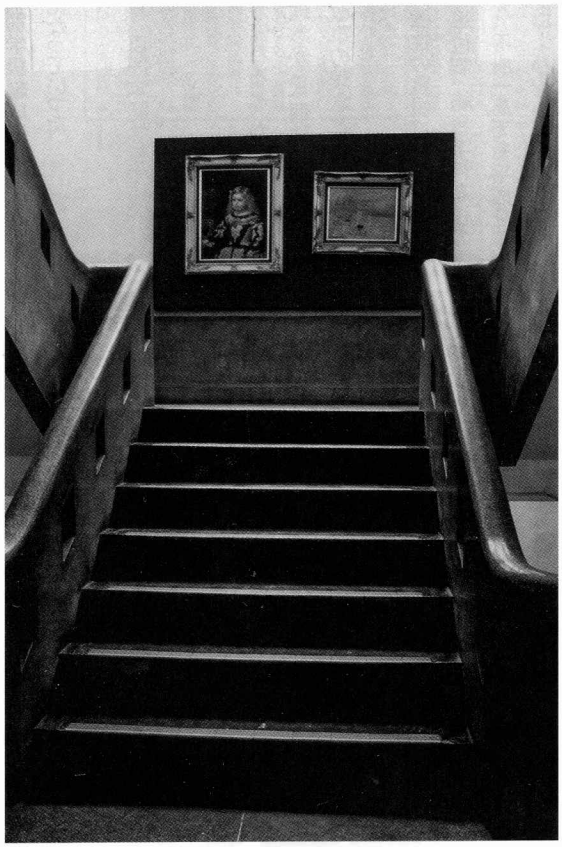
旧校舎での出来事

数々の資料のなかには、旧校舎の出来事や本館以外の建設や増築などの記録も残されており、内容を抜粋した形で当時の様子をまとめた。

【昭和初期】

学校の1日は『日新鐘』の鳴鐘で始まりを告げる。当時は下履き、上履きの区別をしていた。靴は黒の革靴かゴム底靴で上履きは白の運動靴であった。教室では入試の成績順で席が決められており、進級してからも成績上位4人を各クラスの一番へ振り分け、その他の生徒も成績による席順であった。通学は6割が徒歩、2割が自転車、1割が県内全域から汽車で通っていた。

また、昭和10年には野球部が甲子園出場を果たし、2回戦まで進出した。



この階段を昇り降りする事がステイタスだった

【戦前戦中】

時代が戦争へと斜傾していくなか、学校生活も変化していった。あらゆる物資の節約が始まり、服装や文房具などの新調も困難になっていった。

『日新鐘』の替わりに、49連隊から響いてくるラッパの音が、学校の時制となっていった。学校内の教育も、戦争遂行の目的が主となっていき、上級生の陸軍や海軍関連施設への学徒動員も強化され、また、下級生は、農作業の援助などの勤労奉仕に駆り出された。日を追うごとに、校内で生徒の姿が消えていった。さらに、厳しい環境下で食糧不足による栄養失調などから体調不良者も続出した。

昭和20年7月の甲府空襲の際は、鉄筋コンクリートの本館以外の校舎はほとんどが焼失した。

［昭和18年5月、木造9室を増設］

【戦後】

戦後もしばらくは地元での勤労奉仕などが続いていが、戦時中に行なっていた『挙手の礼』などの慣わしの廃止が進んでいった。

戦後の教育環境の悪さに、授業のボイコットなどもあった。「戦前の甲府中学に戻せ」と学生らの混乱は続き、教頭の辞職や校長の異動などがあった。

さらに、戦後の復興のなかで、教育の再生も進み『学校教育法』の公布により、旧制中学校を廃止して新制高等学校が発足することとなり、新しい教育制度、教育課程によって学校運営が開始され、全日制・定時制・通信課程および併設中学校が設置された。また、昭和25年には男女共学となり、女子生徒は全体の7パーセント弱だった。当初はトイレ問題などに苦労した。

［昭和23年4月、木造2階建8教室を増設］
［昭和25年4月、特別教室2階建6教室、準備室2教室を増設］

【昭和中期】

昭和30年代後半から、1年生の入学儀礼として応援練習が定着していった。

昭和43年度には、甲府一高と甲府南高の2校

旧校舎から新校舎へ

旧校舎解体を間近に見てきた恩師の先生と平成5年卒に話を聞いた。

学生・教師としても一高で過ごした恩師の先生は・・・

「甲府一高に入学したのは昭和45年で当時の1年9組と10組は木造の北校舎でね。その後、改築のためプレハブ校舎へ移ったんだ。2～3年生の時は旧校舎だったけど、天井がとても高く冷んやりとした空気が漂っていて、重厚感があったことを覚えているよ。

教師としては3校目の赴任先で一高に戻ってきて、とても懐かしい気分だったなぁ。自分が高校3年生の時と同じ教室でクラス担任になったこともあって、その時は運命的なものを感じたよ。また在籍中は、2・3年、1・2・3年、1・2・3年と3回の卒業生を送り出すことができた。

旧校舎の改築に関して当時の事を思い起こすと、平成2年頃から教育委員会などで議論され始めて、その後に県議会で承認され、計画は平成4年8月に解体をして、秋頃から新校舎の建設へと工事が進んでいったと記憶している。旧校舎の老朽化も激しくて新時代に向けての教育現場としては対応しきれない現実もあって、PTAや同窓会などからも新校舎を望む声が上がっていたんだ。

旧校舎の解体が始まって、毎日それを見ていると寂しくなったね。最後に正面玄関部分だけが残されたのを見た時にはさすがに感極まったし、学生時代、教師時代を過ごしたこの校舎への感謝の気持ちでいっぱいになったよ。

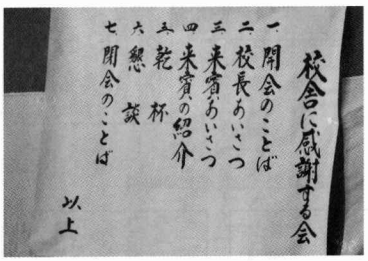
それから工事中の授業は、3年生は西館、1・2年生はエアコンが設置されたプレハブ校舎だった。体育の授業終わりに男子生徒がクーラーの設定温度を18度まで下げて涼んでいたエピソードもあったね。あの灼熱の教室では仕方ないと思ったよ。後は、遮音性が低くかったから隣の部屋の話声が授業中に聞こえてきたり・・・。プレハブ校舎ならではの出来事がいくつもあった。

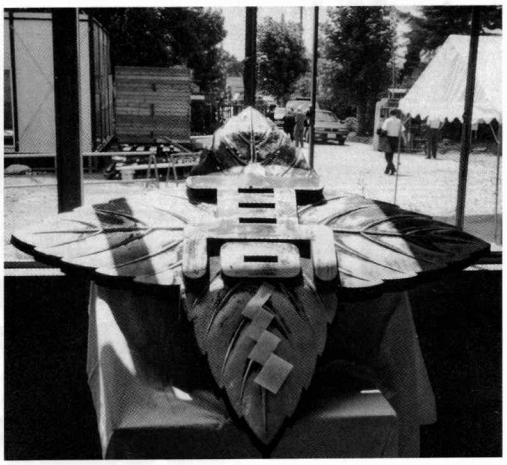
3年生にとっては日々過酷な環境での半年間であったと思うけど、この状況を乗り越えて受験などに臨んだってことは、人生の大きな財産になったと感じてほしいと思ったね。

完成した5階建の新校舎を見た時には、旧校舎のシンボリックな部分は残しながらも近代的な姿へと変わったなと。ここから甲府一高の新たな歴史が創られていくんだと感じた」

平成5年卒の後輩は・・・

「新しい校舎に入れず残念だった／旧校舎の正面玄関の雰囲気が好きだった／3年生の後半は西館で過ごした／受験を控えていて解体工事や騒音などはあまり覚えていない／寂しさはそれほど無いが、旧校舎を何らかの形で残せなかったのかと思った／解体現場で卒業アルバムのクラス写真を撮影した／強行遠足も卒業式も敷地内は工事中だった」など、寂しい気持ちや残念な部分もあるが、3年生というタイミングで自分自身の進路のことなどで、精一杯だったという複雑な思いも伝わってきた。





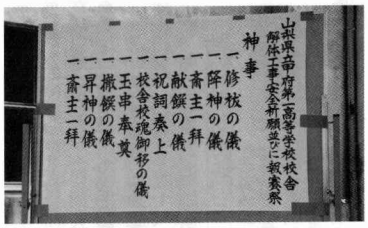
校章や賛天地之化育の文字が取り外された『校舎に感謝する会』の様子

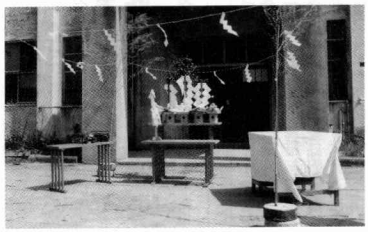
甲府一高であり続けるために

私たち平成4年卒の年代は第2次ベビーブームであった。人数が多すぎて近所の幼稚園に入れないケースもあった。小・中学校は6～7クラスが当たり前で、甲府一高でも9クラス400人を超えており、45人前後でのクラス編成であった。ちなみに現在の甲府一高は6クラス220人、30～40人のクラス編成だという。下の学年になるともっと少なくなるとのこと。

あるデータによると、私たちが生まれた1973(昭和48)年の出生数は全国で約209万人(山梨県で約12、700人)であった。一方で昨年2024(令和6)年の出生数は全国で約68万人(山梨県で約4、500人)、統計データの残っている1899年以降、過去最少を更新する見込みだという。今後も人口減少はさらに加速していくなかで、当然ながら高校の生徒数も年を追うごとに減少していくだろう。

各高校でも毎年、定員やクラス数などの見直





解体工事の安全を祈願する『宝賽祭』の様子

しが行われているが、これからも時代に則した学校再編などが検討されるだろう。これまでの県内の学校再編の例を見ると、峡北や峡南地域、甲府市内でも高校の統合による再編は行われてきた。全国に目を向けても、サッカーやラグビーの名門校でさえも、学校再編計画によりその名を残す事なく統合されている。

恐れながら書かせていただくと、甲府の北部には一高を含めて2校の公立高校がある。そう遠くない未来に『このエリアに2校の高校が必要か?』という議論がなされる可能性もゼロではないと思う。平成19年からは全県一区制度となり、個性や自由の尊重、総合学科高校の設立などが行われて、それぞれ特色のある学校運営がされているが、令和7年度の県立全日制高校の募集定員に対する倍率は0・95倍であった。【甲府一高 普通科(1・08倍) 探究科(0・79倍)】

これからも多くの中学生から進学先として支持されるために、また、甲府一高が『甲府一高』であり続けるために何をすべきなのか?甲府一高に関わる教師・生徒・卒業生・同窓会などが、それぞれの立場でさらに深く考えなければならない時期がすぐそこまで来ている。

重機などによる
旧校舎の解体の様子

終わりに

今でも私たちの心のなかには、山手通りの美咲歩道橋付近から北側の路地を覗き見ると、『前店・横店』に多くの学生が賑わうその奥に、威厳に満ちて堂々とそびえる旧校舎の姿が記憶されている。しかし、現実にはその姿はもう無い。新校舎と形容する『現在の校舎』も30数年の時間を重ねてきて、この場所で甲府一高の新時代を築き上げてきた1万人近い卒業生もいる。

過去にとらわれずに、先を見つめて新たな『一足』を踏み出していき、甲府一高の『伝統』をこれからも後輩へと繋いでいってもらいたい。

この企画を実施することになったきっかけは、平成3年卒のある先輩の言葉であった。

『君たちが旧校舎での最後の卒業生だよね?君たちが伝えるべきことがあるはずだよね』と。

この言葉が私たちの心に響き、母校・甲府一高の事をこの歳になって改めて『もっと知りたい、伝えていきたい』と思うようになった。1年がかりで何とか形にすることができた。

あの時、声をかけてくれた先輩に感謝したい。

1926(昭和元)年 創業

喜久乃湯温泉

地域を見つめ続けて、ともに100年

文豪・太宰治も足繁く通ったという『喜久乃湯温泉』。三代目のご主人と女将がつながれた温泉銭湯100年の歴史やお二人の学生時代の追憶、現役一高生への思いを語ってくれました。

正統派の温泉銭湯 経営者は甲府一高の先輩

甲府一高から東へ400メートルほどの場所にある『喜久乃湯温泉』の創業は1926(昭和元)年。今年で100年を迎えた歴史ある温泉銭湯です。甲府一高も1928(昭和3)年に甲府城跡地から美咲の地に。それ以来、この地域の移ろいや人々の暮らしを見つめながらともに歩んできました。

そんな『喜久乃湯温泉』を守るのが、三代目店主・平賀ご夫妻。実はこのお二人、甲府一高の卒業生です。ご主人の忠臣さんは、学生時代『喜久乃湯温泉』の敷地内の自宅で暮らして、女将の理恵子さんの実家もすぐ近くで、幼少期から同じ地域で生活していました。お二人はともに一高では美術部に所属。忠臣さんら卒業生が、時折後輩の理恵子さんたちの指導に訪れていたとのこと。しかし、理恵子さん曰く「指導というより、テニスや野球をしたり、遊びに来ていた感じ」と。当時の美術部は、教師も交えて親睦を深める機会が多かったそうで、その舞台のひとつが『喜久乃湯温泉』の2階の大広間でした。須藤獏先生や三枝茂雄先生のもと、一高は東京藝術大学へ進学する生徒も多く輩出。その指導の質の高さから、他県の学校が視察に訪れるほどだったといいます。

卒業後、それぞれ美術大学へ進学。忠臣さんはその後、山梨へ戻って美術教師として活躍。理恵子さんは、アメリカ留学を経てデザイナーの道へ。長い間、別々に歩んでいたお二人が再会したのは、一高美術部のOB会の席。「そこからどのような経緯で夫婦になったのかは…ご想像に

お任せします」と理恵子さんは笑う。当時の美術部仲間からは「この二人が一緒になることは絶対にありえない」とまで言われたほど、意外な組み合わせだったそうです。そんなお二人が人生をともにし、100年続く温泉銭湯を守り続けている。不思議な縁を感じさせる話です。

繋ぎ続けた100年の歴史

『喜久乃湯温泉』は1926(昭和元)年に忠臣さんの祖父母である伴七さんとたのさんが創業。時代は戦争へと向かっていく混乱のなかで、昭和17年に伴七さんは「店をたたんでもいいぞ」と言い残し、高齢のため他界。それでも、たのさんは店を閉じることなく、親戚や孫たち、従業員らと協力しながら温泉を守り続けました。終戦となり、戦地から戻ってきたたのさんの三男・忠治さん(忠臣さんの父)が経営を継ぎ、その妻・春江さんとともに、『喜久乃湯温泉』の二代目となりました。昭和の高度経済成長期を迎える頃まで、温泉銭湯は地域の暮らしに欠かせない存在であり、昭和41年には施設の増設が行われ、湯船は2つから4つに。最盛期には、1日千人以上のお客様が訪れ、脱衣所には脱衣籠が所狭しと並んだといいます。しかし、家風呂の普及やライフスタイルの変化とともに、銭湯業界は次第に厳しくなっていきます。そして、平成16年には『喜久乃湯温泉』にとって最大の試練が…。春江さんが病に倒れ、経営が窮地に。忠臣さんは当時、教師として多忙な日々を送っており、家業に携わることは難しく、東京から姉2人が毎週交代で手伝いに来るなど、家族総出でなんとか経営を続けたそうです。しかし、「喜久乃湯温泉もここまでか」と周囲でささやかれるほど厳しい状況が続き、忠臣さんと理恵子さんは平成17年に病床の春江さんを見舞い「自分たちが後を継ぐ」と決意を伝えました。それから約19年間、お二人で懸命に店を切り盛りしています。

昭和の幕開けと共に現在まで幾多の試練があったが、『喜久乃湯温泉』に関わる人々の協力があって途切れることなく続いた100年の歴史。お二人は、「ここまでつないだ歴史。これから先のことはわからないが、お客様が来てくれる限り、一生懸命続けていきたい」と語ってくれました。

喜久乃湯温泉が見つめた人間模様

昭和初期、まだ家に風呂がある家庭はごくわずかで、毎日多くの人々が『喜久乃湯温泉』を利用していました。やがて家風呂が普及して利用者が減少したり、サウナブームや温泉ブームの到来などで客足が増えた時期もありましが、常連客や観光客など多くの方々に支えられてきたといいます。そんな『喜久乃湯温泉』で印象に残るお客様の話をお二人が聞かせてくれました。

「やっぱり一番は、太宰治さん。昭和14年頃に太宰さんはここから西へ数百メートルの御崎神社付近で新婚生活を送っていて、執筆を終えると夕方には毎日のようにここへ通っていたという。温泉内に今も残る体重計や脱衣籠は昭和初期のものだから、もしかすると太宰さんが実際に使ったかもしれない。また、青森から訪れた熱心なファンもいたり、太宰さんの服装を真似たお客様が訪れたこともあった」と理恵子さん。

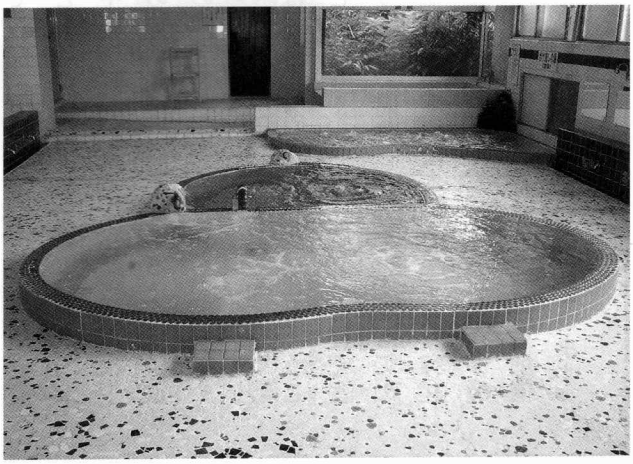
「僕が学生だった頃には『朝湯会』というものがあって、朝6時から営業していたんだ。美術部の仲間で、登校前にひとっ風呂浴びる粋なやつもいたね」と忠臣さんが懐かしそうに笑う。

「かなり前だけど一高生の印象的なエピソードもあるよ。ある日、制服姿で来店した生徒が、入浴後にジャージに着替えて帰っていってね。でも、制服を置き忘れていっちゃった。よっぽどお風呂が気持ちよかったのかなと、すぐ学校に連絡しましたよ。また、一高で夏合宿中の生徒が訪れることもあったり、他校の運動部の生徒が〝ウッス〟と言いながら立ち寄ることもある。今の子には昔ながらの脱衣所やレトロな広告看板などが新鮮に映るみたいだし、瓶の牛乳を珍しがる子もいるね」と微笑みながら話してくれました。

一高生へ寄せる思い

毎朝7時頃から忠臣さんと理恵子さんは開店準備を始める。朝陽に照らされた甲斐駒ヶ岳を眺めながら店の外回りの掃き掃除をする時間は、一高生の登校と重なる。歩いてくる生徒、自転車で駆け抜ける生徒…。時代は変わってもその風景は変わらない。「今は大変な時代かもしれないけど、腐らずに頑張ってほしいね。疲れたらいつでもお風呂に入りにおいで。相談したいことがあれば気軽に話しかけてほしい」と。

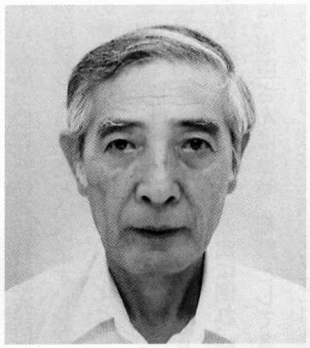
私たちの先輩『喜久乃湯温泉』の三代目・ご夫婦はいつも一高生の姿をそっと見守っています。



平成元年の夏に旧校舎の教室にゴザを敷き、レンタル布団を並べて寝泊まりした部活動の合宿。1日の練習を終え、仲間たちとともにかしましく『喜久乃湯温泉』へ向かったことを思い出します。

女将さんは、「お客様との会話は大切にしているけど、立ち入り過ぎないように心がけています」と語っていた。

一高を通じてつながる人と人。今回、記念誌の編集に携わるなかで、現役生から自分より少し年上の先輩、さらには卒寿を超えた大先輩まで、さまざまな「一高生」と出会う機会があり、どの先輩も共通して「一高生をそっと見守る」という姿勢を大切にしていました。自分自身もそうした先輩像を目指しながら、この先も歩んでいきたいです。



生徒として教師として

学年主任
荻野 秀男 先生

第145周年甲府中学・甲府一高同窓会が開催されることをお慶び申し上げます。開催を担当された幹事学年の皆様のご尽力があってのことと感謝いたします。

記念誌への寄稿を依頼された後、卒業アルバムを取り出してみました。卒業してから三十余年を経ているので、会っても直ちに誰であるかわからないだろうが、必ず生徒の頃の面影が残っているに違いないと思い、面会を楽しみにしていました。

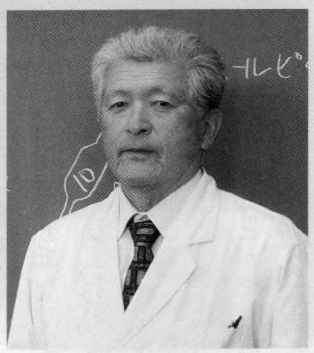
平成4年卒業生の皆さんは、私の学年付き教師としての最後の生徒たちでした。より近いところで生徒たちと関わっていたいと思っていた私には残念なことでした。年齢的なこともありやむを得ないことでした。

めったに取り出して見ることのない卒業アルバムの冒頭の校舎の写真には、今になって見ると、甲府一高でのさまざまなことを思い起こさせてくれます。私は昭和32年(1957年)に甲府一高に入学しました。威厳があり圧倒的な重量感のある校舎が迎えてくれました。学帽に徽章を付けて校門をくぐりました。在学中、長髪が許可されたのですが、男子は皆学帽を被って登校しました。1年生の時は本館裏の木造校舎に入り、2年生の時には本館に入りましたが、冬の寒さは指がかじかんで、1校時はノートを取ることに難儀しました。バスケットボール部は、私の在学中は敗けたことを聞かなかった強豪校でした。野球部も当時は強豪校の一つで、応援席で校歌や応援歌をよく歌いました。中学まで野球部だった私は、野球部員とも親しかったので、試合の応援に行くのは楽しみでした。勉強も先生よりすごいと噂されるような生徒もいたし、先生を困らせるような質問をする生徒もいました。買ってきた数学の問題集を1週間で終わらせたという生徒もいました。

学校行事を代表する強行遠足も忘れられません。松本市から大糸線に沿って進む終点のない強行遠足でした。夕闇の中、舗装されていない富士見峠で、輸送トラックの巻き上げる砂ぼこりを浴びながら歩いたこと、人通りもなくなった岡谷市内で声をかけてくれた年配の女性は、まさに国木田独歩の「忘れ得ぬ人」と同じでした。

教師として甲府一高に赴任したのは昭和60年(1985年)でした。生徒として入学した時と同じ校舎が待っていてくれました。母校の教壇に立つことは感慨深いことでした。通勤に愛宕トンネルを通りながら、生徒だった頃、まだトンネルがなかったので自転車で30分以上かけて通学したことを思い出しました。甲府一高には9年間在籍しました。在職中に同窓会の幹事も務めました。そして何より、あの甲府一高を象徴する校舎にも別れを告げることができました。解体工事中、日々、姿を失っていく校舎を見るのは寂しいことでした。甲府一高には生徒だった頃と教師としての時と合わせて12年間身を預けたことになります。

昨年、甲府一高時代からの親友が亡くなりました。甲府一高の卒業生であることを誇りに思っていた友でした。齢(よわい)を重ねた今、私どもの時代は終わったと思いつつ、甲府一高の卒業生の皆様や在校生の皆様には、校歌にあるように「世の鑑」としてあらんことを願ってやみません。今の私が思う「世の鑑」とは、地位や名誉を得た存在ということではなく、人工知能が人を従えようとする時代にあって、人としての価値を示すことができるような存在であるということです。そして、甲府一高が伝統校として確固たる地位を保ち続けることを願っています。



懐かしい思い出

1組 担任
横森 孝徳 先生

第145周年同窓会総会の開催誠におめでとうございます。当番幹事である平成4年卒の皆さんが卒業して33年も経つのだと実に感慨深く思います。平成元年4月に私も皆さんの入学と共に一高に赴任し担任として共に3年間を過ごしました。歴史ある校舎、正面玄関などのたたずまいが今も思い出されます。その校舎で過ごしたのも皆さんが最後で翌年度には取り壊しとなり、グランドにプレハブの仮設校舎が建てられたのでした。

学年主任は千野恒夫先生、翌年からは荻野秀男先生でした。千野先生の話の時は、生徒は勿論教師までもが緊張しているかのような空気でした。担任の多くは30代後半でそれにベテランの先生方が加わった大所帯の教師集団が45人×9の生徒のサポートに当たりました。そして、生徒も教師集団もとてもエネルギーをもっていました。

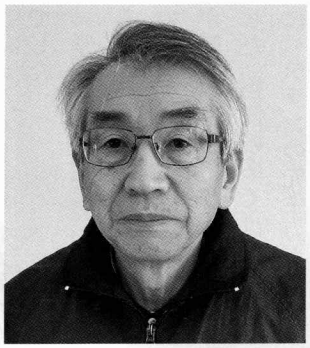
教師は授業をし、そのために教材研究をする。それが仕事の大部分のはずですが、教材研究はいつも家に帰ってからでした。とにかく忙しく、朝から晩まで、家に帰っても学校のことを考えていました。徹夜も随分としました。教員とはこんなものだと当たり前のように過ごしてきました。そして、風邪一つひかない丈夫な体だったため、乗り越えることができたと思っています。当時は全てのことに一生懸命でしたが、教師本来の仕事である、担任が生徒に向き合うことや時間をつくって話を聞くことができていたのだろうかと今もときどき反省の気持ちを抱くことがあります。16～18歳の生徒にとって35～37歳の一教師がどう写っていたのかと。今や51歳になった皆さんが社会において最も働き盛りの年齢になって活躍していることを嬉しく思います。

平成2年に全国総合文化祭山梨大会が開催され、器楽管弦楽部門の運営を任されて休日も指導に明け暮れました。岡山大会や沖縄大会に生徒を引率して出かけたことも懐かしく楽しい思い出となっています。元年度、2年度は顧問を免除されていましたが、3年度からは弓道部の顧問になりました。指導できない顧問でしたがいい思いをさせてもらいました。弓道部はとても強く、自主的に礼儀正しく整然と活動していて、5月の高校総体では女子は優勝、男子は競射の末惜しくも優勝は逃しましたが準優勝を果たしました。

校務分掌は教務係でしたので、学校に生徒や職員がいないときも、時間割作成や始業式入学式の準備、1月からは卒業式や入試に関わる業務などがあり一年中、学校にいたという印象を持っています。また、同窓会やPTAのことも担当していたので、同窓会の理事会、総会などに行ったことも懐かしく思い出されます。

一高には全国に誇れる強行遠足があり、1924年から始まったこの行事は100年を越えました。この間5回の中止を経て96回開催されています。平成2年には台風のため中止となりました。延期すると医者と看護師の確保が困難になり生徒の安全が保障できなくなるからでした。この行事は実に多くの協力者や支援者によって支えられていることを改めて認識したのでした。国道を走るトラック運転手から歩行が危ないという抗議の電話を受けたこともありました。小諸市長さんを始め長野や沿線の人たちの温かい御厚意によって支えられているのです。平成元年と3年には、一高から韮崎までの後尾追行と小諸での勤務を終え小淵沢駅の乗り継ぎ指導の業務をしたことを思い出します。そこには棒のようになった足でやっと階段を上り下りする生徒の姿がありました。しかし、こんな行事を経験できる生徒が羨ましくもありました。一高勤務11年間の最初の3年間の思い出を書きました。

最後に、一高の伝統と校風に育まれた皆様の御健康と一層の御活躍を心からお祈りします。



御挨拶

3組 担任
佐野 純一 先生

皆さん今日は。この度は同窓会開催おめでとうございます。また今回当番幹事の平成4年卒業生及び平成21年卒業生の皆さん、誠にご苦労様です。

私は平成4年卒業生の学年で3年間担任をしておりました。年度でいうと平成元年度から平成3年度までとなります。当時甲府学区は総合選抜制になっておりました。私も甲府一高での勤務が2回り目となり決意を新たにしてのスタートでした。この3年間は、勉強や部活動また学校行事など学校生活のいろいろな場面で多くの生徒とふれあうことができ、総じて楽しくまた有意義な時間を送れたのではないかと思っています。

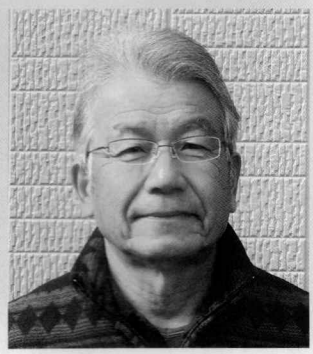
ところで平成元年といえばわが国では昭和から平成へと年号が変わった年であり大きな節目となった年であるわけですが、世界史的にも「ベルリンの壁崩壊」や「東西冷戦の終結」など大きな転換点となった年でした。また好景気に沸いていた経済も翌々年には「バブル崩壊」を迎えることになり景気の減速が忍び寄っていました。

このような中、今では当時の記憶も断片的であいまいなものになってしまいましたが、思い浮かぶのは、受験に向けて授業や課外に真剣に取り組む生徒たちの姿です。共通一次試験が終了し新たに大学入試センター試験が導入された頃ですが、18歳人口はピークを迎えており受験生にとっては「狭き門」の試練の時期でもありました。分厚い進路資料冊子を片手に自分の成績票と見比べながら受験校を決めるために思い悩む生徒たちの姿も同時に思い出されます。いつの時代も受験や試験は大変なものですが、人生において避けて通ることはできません。結果は人それぞれかも知れませんがこの体験を通して何か大事なものを得てくれたものと思っています。あれからすでに30数年が過ぎました。改めて月日の経つのは早いものだと感じています。

この30数年間で世の中はずいぶんと変わりました。携帯電話、スマートフォン、SNS、等々・・・。単に通信技術の進歩というだけでなく人間社会のあり方にまで影響を及ぼしています。さらにAIの進化にもめざましいものがあります。AIという言葉を聞かない日はないと言っても過言ではありません。私は囲碁や将棋のテレビ対局をよく観戦しますが、その時にはAIによる評価値を大いに参考にしています。30数年前には考えられなかったことです。

「不易流行」という言葉があります。変わらないもの(不易)を基本にしつつ、新しいもの(流行)を取り入れていくことが大切だというような意味のようです。現在、各高校には特色ある学校づくりが求められています。甲府一高では「英語科」から「探究科」へと学科改編が行われグローカルリーダーの育成を目指していると聞きます。伝統を引き継ぎつつ時代時代に応じて柔軟に変化していくことは大切なことだと思います。

最後になりますが、今後の甲府一高の更なる発展を期待すると同時に同窓の皆さまの益々のご活躍を祈念し挨拶とさせていただきます。



近況とあの頃の自分のこと

4組 担任
中込 富夫 先生

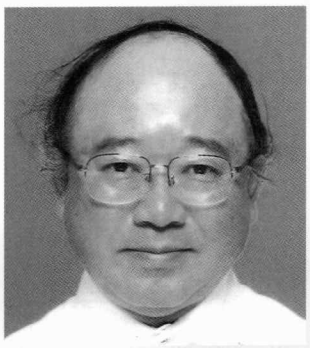
第145周年甲府中学・甲府一高同窓会総会の開催、誠におめでとうございます。また、平成4年卒業生の皆さん、当番幹事ご苦労様です。総会の成功を祈念いたします。

記念誌への寄稿は4回目になるので、重複した内容もあり、また、最後の寄稿になるという思いから纏めのような内容になってしまいましたが、ご容赦ください。

私は、一高に10年間勤務させていただきました。その後、峡南高校、石和高校、峡東教育事務所、身延高校、総合教育センター、県立図書館、塩山高校と勤務し、定年退職しました。この間、組織の運営や経営にかかわる仕事がほとんどで、学級担任をしたのは2年間だけです。その点で、甲府一高での10年間は貴重で思い出深いものですが、私にはそれ以上の重い意味があります。当時の私は教師という仕事が自分に合っていないと思っていました。そのうえ、先輩からのいじめのようなこともありました。また、一高からの転勤はパワハラではないかと組織の長を経験した今も思っています。そんな私が教職を天職と思えるようになって退職できた根幹には皆さんがいました。生徒あっての教師。感謝しています。退職後は花と野菜をほんの少し、妻の名で「道の駅とよとみ」に出荷して昨年古稀を迎えました。しかし、昨年は人生最大の厄年で、緊急入院2回、大病4つが約2か月の間に一気にきて、何もできないただ生きているだけの日が長く続きました。今はやや回復しましたが、人生「まさか」ということが起こること、「明日がある」と気軽に思ってはいけないことを初めて知りました。

さて、一高での思い出はいろいろありますが、うまくいったことよりもうまくいかなかったことのほうがたくさん思い出されます。当番幹事の皆さんのクラスでいえば、お父さんの仕事の関係で転校したKさんのこと、病気で一緒に卒業できなかったMさんのこと。クラス全体でいえば、皆さんに十分に接していたのか、自分が学級担任でよかったのかという思い。これは不思議なことに、年を経るごとに強くなります。当時の私は、実社会では本来の業務以外で忙殺されたり、理不尽な要求に耐えたりしながら、その中で成果を上げていかなければならないと考えていました。そのため若い時に様々な事柄に適切に対応しながらも目標を達成していく経験が大切で、耐性をつけておくことが必要だと思っていました。高校生活でいえば、部活動や委員会活動、清掃活動など日常の諸活動にしっかり対応しつつ勉学に正面から取り組むこと。これが理想形で、学園祭や球技大会などを含めて様々な場面で、皆さんの主体性に期待しました。幸いにも皆さんは見方によっては放任とも思えてしまうクラス経営にあって自主的・自律的に活動してくれました。当時の私は、私の考えは間違っていないと思っていました。しかし、普通高校にあって喫緊の課題ともいえる進学を前にしてそれが適切であったのかどうか。皆さんを思い出すたびに自問自答しています。皆さんが高校生活を意義あるものと思っていてくれることを祈るばかりです。

当番幹事の皆様のご健勝と甲府一高及び同窓会の一層のご発展を祈念いたします。



至誠惻怛（しせいそくだつ）

5組 担任 佐々木 宏夫 先生

第145周年甲府中学・甲府一高同窓会総会が開催されますこと、誠におめでとうございます。当番幹事の平成4年及び平成21年卒業生の皆さん、大役お疲れさまです。平成4年卒業の本年当番幹事の皆さんは、私が赴任5年目に担任した3学年の生徒たちです。温厚で明るく、才能豊かな皆さんと楽しく過ごした日々が懐かしく思い出されます。

突然ですが、夢の話をします。夏目漱石の『夢十夜』ではないですが、私は今朝、こんな夢を見ました。

私が、どうも、或る出版社の辞書編集室で仕事をしている様子です。グループ長を拝命されているらしく、数人の仲間たちをまとめながら議論し、ゲラ刷りをチェックしている様子。隣のグループ長は女性。私は隣のグループ長に相談しに行く。でも、その女性の顔は見えず、声だけが聞こえます。相談を終え、元のグループに戻り、ゲラ刷りチェックを再開したところで、夢から覚めました。朝、定時に流れ始めるラジオから女性アナの声が聞こえました。夢の中で声だけ聞こえた女性グループ長の声は、恐らくこの声だったのだろうと気が付きました。でも、夢の中とは言え、どうして辞書編集室で私が仕事をしていたのでしょう。私には教職経験しかないのに。

夢というのは不思議なもので、現実の人生経験にそぐわないことも、平気で実現してしまうのです。もしかしたら、私の心の端に、辞書編纂への憧れのようなものが存在するのでしょうか。今までほとんど意識していなかったのですが…。英語教師として、言語学を学んできた学徒として、辞書は私にとって、とても大切なものだということは確かです。書斎でざっと辞書や言語学に関する書籍の類を数えてみると、英語学関係の雑誌や英語音源CDなどを除いて、300冊以上ありました。私の教員人生の中で、これらの辞書や書籍が私を支えて来てくれたのです。ですから、これらの本を編纂し出版する仕事への尊敬と憧れがあったのだろうと思われます。この原稿を書こうと思い立った日の朝に、その心情が夢に現れたのはおもしろいことです。

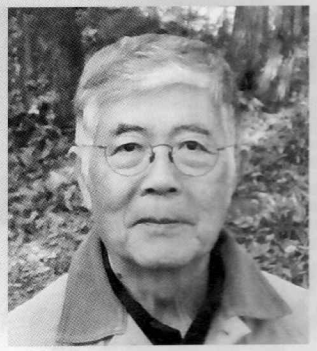
最近読んだ本で、特に心に残ったのは『世界を救うmRNAワクチンの開発者カタリン・カリコ』（増田ユリヤ著、ポプラ新書）と『センス・オブ・ワンダー』（レイチェル・カーソン著、上遠恵子訳、新潮文庫）です。

前者は、ハンガリー出身で、ドイツのバイオベンチャー企業ビオンテック社の上級副社長となり、新型コロナワクチン開発に重要な功績を残したことで2023年のノーベル生理学・医学賞を受賞したカリコー・カタリン氏（ハンガリー人の名前は、日本人と同様、苗字が先、名前が後）の人生と彼女の研究の可能性について書かれた著作です。カリコー博士が数々の挫折を経験しながらも、自分の研究の価値や研究方法を信じ、40年の長きにわたり辛抱強く研究し続け、新型コロナのパンデミック期に真価が認められて、彼女の理論に基づいて製造されたワクチンが世界を救ったと評価されたのです。人生に対する彼女の姿勢には大いに学ぶところがあります。

後者は、米国の海洋生物学者レイチェル・カーソンが、彼女の最晩年に著した小著です。「もしもわたしが、すべての子どもの成長を見守る善良な妖精に話しかける力をもっているとしたら、世界中の子どもに、生涯消えることのない『センス・オブ・ワンダー＝神秘さや不思議さに目を見はる感性』を授けてほしいとたのむでしょう」という一文が、彼女のこの著作に託した哲学のすべてを語っているように思います。『沈黙の春』『潮風の下で』『我らをめぐる海』などの彼女の著作を読むと、彼女が、子どもばかりでなく、すべての生命を大切にするというスタンスを貫いた人物だということがわかります。彼女の「命を大切にする哲学」は、すべての人々に学んでほしい哲学だと思います。

タイトルに掲げたのは、儒学者、山田方谷（ほうこく）氏のことばで、ノーベル生理学・医学賞を受賞した大村智博士の座右の銘の一つだそうです。「真心と、人を思いやる心を持とう」というような意味だそうです。来年の書初めの折には、この言葉を墨書して部屋に飾っておこうと思っています。

同窓の皆様と一高にご勤務なさった（なさっている）先生方のご健勝と益々のご活躍を祈念申し上げます。



追想 一高

6組 担任 横森 達朗 先生

近況 ― 馬齢を重ねと言ったら馬に失礼か、Homo Mobilitasにかこつけ倅のマイルを使って、あっちこっちをながれあるいておりました。

2019年グルジア、ポルトガルを最後に、ポーランド、ウクライナへのバックパック旅行が武漢ウイルスでだめになり、ワクチンを打ちながら国内のはしっこ旅行に替えました。

今年は前からの念願であった、四万十川でのカヌーの川下り(三途の川を渡る練習かと他人に言われると腹が立つが)、高知ひろめ市場で可愛げな夫人に、ほらをふいたわけでもないのに「貴方、ただ者ではないわね。」の言葉に舞い上がったまではよかったが、その後、質の悪い風邪をもらい、家の補修のガタガタもあり、畑は草ボーボー、このままとぼれるのではないかと思う程の体調不良が長引いております。先輩に「それが歳というもんだよ」と。

追想 ― 教員としてはやっぱり担任をするのが花で、最後の担任をさせてもらいました。おかげさまで大変でもありましたが、生徒の皆さんとの数々のやりとりを思い出してニンマリ。

「80点目指して頑張ってくれ、赤点は取らないようになvsまたー」、「誰かこの集金やってくれない?vs俺やります」、「いつも悪いね、Yちゃん」、「掃除をさぼったのは誰だvsばれたか」等の日常が愛おしく、濃密で充実した最も生き生きとした時間を過ごすことができました。

もう一つ記憶に残るのは、校舎の移転改築の担当になり、解体業者との立ち話です。「県内有数の建物をやたらバリバリ潰したらもったいないよね。本館正面をゆっくりスローモーションのように後ろに倒さないと、絵にならんじゃんねー」と。快適とは言い難かった建物だったけど、色んな人々の思いが詰まったところで勤めさせてもらったんだなあと思いました。

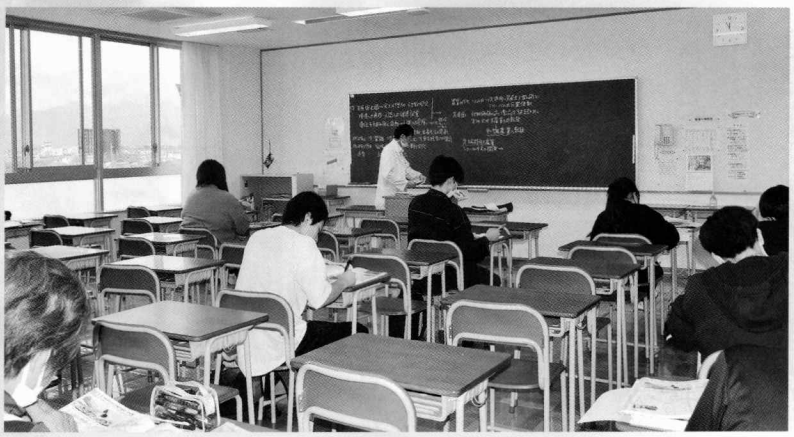
至福 ― まえの同窓会にお招きいただいた折、「俺は美術をとっていなかったけど好きでどうしたらいいのかと先生に聞いたら」、「美術館に行ったら」と言われ、今でも美術館通いをしています。ありがとうございました。」と。その時は頭のめぐりが悪くて通り一遍の反応しか出来なかったけど、勲章をもらったような嬉しさがこみ上げてきました。こちらこそ教員をやって良かったと思える瞬間でした。有り難う。

祈念 ― 実行委員会の皆さん大変お忙しい中、伝統ある一高同窓会のバトンをつないで、その重責を果たされ、愚生にまでご配慮いただきありがとうございました。同窓生の皆様ありがとうございました。どうぞ健康第一に、ご活躍とご繁栄を祈念いたします。

お目汚しの、拙文をご容赦ください。

「教科用図書地図」について想うこと

7組 担任
小林 一雄 先生



第145周年甲府中学・甲府一高同窓会おめでとうございます。平成4年卒業生の皆様方が、同窓会当番幹事としてご活躍されていることに心から敬意を表します。

私は1986年(かいじ国体開催の年)から1993年(新校舎に引っ越した年)までの8年間勤務させていただきました。今回の当番幹事の皆さん方は1989年から1991年までの3年間、いわゆる持ち上がりで担任した唯一の学年です。皆さん方が入学された年からすでに36年も経過しておりますので、当時のことはかなりおぼろげになってはおりますが、確か「1の1」→「2の9」→「3の7」と受け持ったのかな?と記憶しております。

さて表題について一言述べたいと思います。教科用図書地図とは地図帳のことです。皆さん方が現役時代に授業等で使用していたあの地図帳のことです。念のため申し添えておきますが、地図帳は教科書であり、副教材ではありません。ズバリお聞きします。当時の地図帳を今でも持っておられますか?もしかしたら今でも使用していますか?

私は仕事柄この地図帳とは長いお付き合いになる訳ですが、例えば知らない地名や曖昧になっている地名が出てきたときには、場所や位置等がハッキリと確実なものにならないと気持ちが落ち着かないこともあり、仕事に関係が有る無しに拘わらず、頻繁に開いています。その際強く感じるのは、特に目的もなく、何気なく開いたときに、「新しい発見」があるということです。こうした新しい発見を積み重ねていくと自由自在に使えるツールとしての知識が蓄積されていき、人生をより豊かにしてくれています。

この度、地理が「地理総合」という科目名で、全員必履修となりました。**選択科目時代には地図帳を所有する生徒は地理選択者のみ**という状態でしたが、これからはこのことが解消されていくのは誠に喜ばしい限りです。自身の回りにおいても、同僚の先生方も含め、高校時代の地図帳が存在しない人を実に多く見かけてきました。先程ズバリお聞きしましたが、もし現役時代の地図帳をお持ちでしたら、最新の地図帳と是非とも見比べてみてください。皆さん方が在学中に起きた東西ドイツの統一やソ連の消滅など、あれから国内外を問わず、世の中が物凄く変化しているということを嫌が上でも理解できちゃいます。

諄いようですが、教科用図書地図(地図帳です)を常に座右に置き、事あるごとに開いてみてください。開く度に必ず「新しい発見」があるはずです。では、再会を楽しみにしております。

広告目次

あ

アース・リサーチ㈲……27
アイエス企画㈱……53
相川保育園……105
アイグラフ……106
IJPOWERS㈱……83
愛車倶楽部AQUA……97
あいせ税理士法人……107
相田氷問屋……83
㈲相原商事……43
㈲アウテリアあかざわ……72
アウトブラン㈱グランドスラム甲府……42
青柳印刷㈱……79
赤岡綜合薬局……94
アカオライフプロジェクト㈱……95
燈屋……108
健寿会あきやま医院……85
㈲秋山工機……109
秋山歯科医院……88
秋山建具工業……91
秋山陶器店……77
秋山脳外科……62
秋吉甲府店……101
㈲アクティブ丸井……91
㈲アクトワン……108
浅川熱処理㈱……59
あさけ整骨院……109
㈱アサヒ総合サービス……86
アザレ山梨……100
㈱アシストエンジニアリング……70
[illegible]……82
アスプ[illegible]……91
[illegible]……93
[illegible]……77
[illegible]……70
アス[illegible]……74
アピオセレモニー……表2
㈱天鳥……75
㈱雨宮……68
㈱アミノ測量……93
雨宮工業㈱……18
荒川外科肛門医院……37
あら川こども園……78
ザ・ダイニング アルフィー……83
アルプス事務機㈲……93
㈱アンク……94
㈲アントン・ランドデザイン……107
anlib㈱……61
㈲アンリミット・ジャパン……68

い

ECCジュニア甲府西教室……104
飯田鉄工㈱……51
居酒屋お多福……88
居酒屋ながらや……89
居酒屋はなちゃん……104
㈲イシイ石油……90
石川法律事務所……89
㈱石黒工務店……105
㈱石坂屋……78
石のもちづき㈱……104
石山耳鼻咽喉科クリニック……102
㈲イズマタ……76
和泉愛児園……79
磯部公認会計士税理士事務所……67
イタリアンレストラン&バーるびい……102
[illegible]……88
[illegible]……100
[illegible]……75
[illegible]……81
[illegible]……95
[illegible]……73
[illegible]……103
[illegible]……95
糸柳こやどゆわ……104
稲積神社……76
井上鋼材㈱……86
㈱いのまた……80
今村歯科・矯正歯科クリニック……111
今村耳鼻咽喉科めまい・難聴クリニック……91
㈱入兆……41
岩野精肉店……76
㈲インシュランス相和……98
㈱印傳屋上原勇七……50
㈱INNER FLARE……73

う

㈱Vent（ヴァン）計画設計室……89
㈱魚宋（魚そう本店）……89
碓井自動車㈱……76
㈱うちだ……79
内田歯科医院……88
内田皮ふ科……65
うなぎあけぼの……82
うなぎ割烹 石水庭 横内……83

え

永住村㈲……71
永照寺幼稚園……84
エイトバウム……102
㈱栄和交通……85
a-life……96
㈱エコ・フカサワ……65
SMBC日興証券㈱甲府支店……96
㈲エスピーインターナショナル……73
㈱エターナルジェム……32
江戸一……108
㈲エヌディエス……90
[illegible]……109
[illegible]……93
[illegible]……60
[illegible]……95
㈱エム・クラフト……105
㈱エリアビジョン……100
エルク……77
エルテックグループ……30
円﨑興業㈲……102
エンゼル動物病院……62

お

円明寺……24
大泉はなわクリニック……60
㈱オオキ……61
㈲大木自動車……91
大木社会保険労務士事務所……56
大久保内科呼吸器科クリニック……63
大城眼科……103
大関食品㈲……110
オオタ総合食品㈱……92
大原学園甲府校……108
㈲オオモリ……93
大森歯科医院……93
㈱小笠原商会……102
㈱岡島……108
小川歯科医院……96
㈱オギノ……11
長田組土木㈱……23
㈲長田産婦人科クリニック……72

長田米穀店……98
㈱小澤建築工房……95
小沢耳鼻咽喉科アレルギー科クリニック……82
小澤設備興業㈱……87
小澤畳工業所……95
押原こども園……77
㈱オズ・プリンティング……86
OZ歯科口腔外科クリニック……79
おそうじや本舗甲府営業所……95
おちあい歯科医院……69
㈱乙黒……68
㈱小野石材店……51
㈱帯金工務店……109
か
㈱甲斐延……72
㈲甲斐絹屋……82
㈲甲斐地所……84
㈱甲斐商会（甲斐の郷）……109
甲斐水晶工芸㈱……92
海沼商事㈱……93
㈲甲斐保険事務所……101
かおるバンケットプロデュース……105
㈲加々美組……69
㈲角市……96
㈱カクジュウ（金精軒）……109
㈱学習空間……45
学習塾 清里スクール……102
梶山クリニック……62
かすがい薬局……99
カットハウスQuick……97
割烹三井……99
金櫻神社……63
金山土建㈱……85
㈲加納岩……12
㈲Cubby……29
かめざわ農園……80
㈱カラーボックス中央店……45
Calla lily……26
㈱カルク……103
寛酔……80
元旦ビューティ工業㈱……28
き
機械工房森のくまさん……83
㈲菊島商店……78
㈱菊水屋……83
喜久乃湯温泉……31
北口本宮冨士浅間神社……80
北の杜カントリー倶楽部……13
㈲キタムラ……95
吉字屋グループ……56
㈱吉字屋履物店……108
橘田耳鼻咽喉科医院……110
㈱きぬや……90
㈲ギフトセンター内藤……40
㈱きむら不動産……36
㈱きものあさ川……81
gallery C……81
キュイエット……89
㈱京呉服ふじや……61
京商㈱……17
峡東ケーブルネット㈱……79
共同電設㈱……105
共同プリント社……88
㈱峡南堂印刷所……103
協和産業㈱……46
㈱清里給油所……72
銀座富士アイス……90
く
貢川鉄工所……103
久喜設計……86
串揚げ深澤亭……84
国代耐火工業所……69
㈱窪田モータース……109
クリーニングミハシ……110
㈱クルール……108
クローバー保育園……68
群芳園……98
け
KHコンストラクション……88
ケイカンパニー……101
NPO法人健康麻将Kaiやまなし……98
㈱ケイコンサルタント……50
恵信グループ……21
ZEIPE㈱……57
けやき通り整形外科……70
こ
甲州隠れ家 篁醇亭（こうじゅんてい）……103
甲州地どり市場……89
㈱合同タクシー……83
河野スポーツ……87
河野造園土木㈱……86
甲府朝日三郵便局……82
甲府一高あおぞら会……65
甲府一高昭和42卒同窓会一同……86
甲府一高昭和58年卒同窓会……23
甲府一高昭和61年卒同窓会……表3
甲府一高昭和63むつみ63会……38
甲府一高平成元年卒卒業生……24
甲府一高平成3年卒同窓会……9
甲府一高平成4年卒野球部一同……29
NPO法人甲府駅北口まちづくり委員会……110
㈱甲府機材……94
甲府記念日ホテル……26
㈱甲府キンダイサービス……99
甲府警備保障㈱……103
㈲甲府城南病院……107
甲府消防一高会……53
甲府信用金庫……65
㈲甲府スポーツ……79
㈲甲府セントラル通商……41
甲府倉庫㈱……54
甲府たくま歯科……87
甲府通運㈱……61
㈻甲府西幼稚園……79
㈲甲府脳神経外科病院……42
甲府ビルサービス㈱……73
㈾甲府風月堂……49
甲府美咲郵便局……102
㈲甲府南ライフケアセンター……4
甲陽建機リース㈱……95
㈱興龍社……66
国際建設㈱……30
五光電工㈱……49
ココペリ……101
㈲小島精肉店……90
㈱コスモエナジー……62
コスモ歯科・矯正歯科医院……101
㈱COTTON CLUB……99
庭）寿造園……99
小林石材店……97
小林リース……106
㈲小宮山外科医院……102
小山医院……82
コラニー㈱……71
小料理克……101
さ
彩食しん……87
在宅福祉エ・ビーナ……107

[illegible] …… 105
(株)CYBOC[illegible] …… 38
三枝酒店 …… 54
境川カントリー倶楽部 …… 表2
酒折宮 …… 76
(株)坂本建運 …… 94
櫻林腎・内科クリニック …… 84
(株)ささごん …… 85
笹本環境オフィス(株) …… 83
(有)ササモトスタジオ …… 82
里の内農園 …… 97
(株)サドヤ …… 84
(株)佐渡屋 …… 108
佐野珠美社労士事務所 …… 101
(株)サラト …… 103
さわ渕 …… 64
(株)澤田屋本店 …… 93
(株)サンカイゴ …… 73
(有)サン構造エンジニアリング …… 95
サンコー電化 …… 87
(株)サンテック …… 105
(株)サンテレコム …… 109
(有)山都 …… 96
山日YBSグループ …… 10
サンメドウズ清里(株) …… 107
サンヨー山梨デンカシステム(株) …… 101
(株)三和リース …… 63

し

ジェイホークイングリッシュハウス(吉井仁) …… 111
ジェット運輸(株) …… 91
ジェミニジェムスインターナショナル(有) …… 103
(株)ジェム・フォース …… 34
(有)塩部モータース …… 78
(学)塩部幼稚園 …… 36
[illegible] …… 51
敷島カントリー倶楽部 …… 66
[illegible] …… [illegible]
(株)敷島[illegible] …… 70
(株)シ[illegible] …… 35
寿司・割烹 若竹鮨 …… 54
(株)システムイン[illegible] …… 54
至誠堂療院 …… 69
(株)シップス …… 84
篠原歯科医院 …… 93
(有)篠原電研 …… 68
篠原貿易(株) …… 110
シミズカメラ豆助 …… 90
清水耳鼻咽喉科医院 …… 94
(有)シミズ酒販 …… 64
シミックホールディングス(株) …… 56
下石田食堂 …… 111
(株)下部ホテル …… 85
(株)ジャパンメディカル …… 94
ジャルダンアッシュ …… 79
ジュエリー工房アトラス …… 97
Juno …… 73
壽命山 昌福寺 …… 81
(株)SHOEI …… 86
商工中金 甲府支店 …… 74
(株)少國民社 …… 39
(株)正直堂 …… 77
昇仙峡影絵の森美術館 …… 99
昇仙峡郵便局 …… 92
昇仙峡ロープウェイ …… 92
浄土の里 …… 67
(株)城南ロードサービス …… 108
城北幼稚園 …… 105
台湾料理 昇龍 …… 108
昭和建設工業(株) …… 99
昭和総合警備保障(株) …… 86
昭和田中歯科医院 …… 96
(株)昭和鉄工 …… 90
[illegible]測量調査事務所 …… 92
(株)三陽アルミ …… 105
[illegible] …… 91
[illegible]書士事務所 …… 53
信貴 …… 57
(株)シンゲン …… 93
真珠の杜 …… 104
人生食堂こばやし …… 72
伸太郎(ライジングサン) …… 92
(株)伸電工業 …… 98
新藤歯科医院 …… 84
(株)新和運輸 …… 87

す

(有)水質メンテナンスアクア …… 16
(有)スーパー太陽 …… 81
(有)末木保険サービス …… 110
スカイエステート …… 97
須貝整形外科医院 …… 84
すが建設 …… 82
杉田小児科医院 …… 68
鮨長 …… 79
鮨よし秀 …… 88
(医)すずき会鈴木・野村泌尿器科クリニック野村照久 …… 95
(学)鈴木学園富士幼稚園 …… 99
鈴木歯科医院 …… 81
鈴木製菓(株) …… 55
鈴木総合事務所 …… 107
鈴健興業(株) …… 85
須田自動車工場 …… 99
ス[illegible] …… 104
(株)ス[illegible] …… 69
住友生命保険[illegible] …… 60
炭焼き酒菜 禄 …… 79
Slow life …… 82

せ

(学)聖愛幼稚園 …… 91
整体気療術院とんぼ …… 89
税理士法人 サンライズ …… 103
税理士法人ポライト田中会計 …… 44
積水ハウス(株)山梨支店 …… 27
セコム上信越(株) …… 84
セブンイレブン[illegible]アルプス通り店 …… 96
[illegible] …… 106
全国共済農業協同組合連合会 山梨県本部(JA共済連山梨) …… 70
全国農業協同組合連合会 山梨県本部(JA全農やまなし) …… 66
(有)千秋舎 …… 94
(株)千里水産 …… 77
せんじゅ薬局 …… 94

そ

創建アシスト …… 67
(株)創合 …… 20
SOUVENIR中央 …… 87
創夢(株) …… 85
(株)ソリタ …… 111

た

ダイアナフォーレ …… 92
第一観光(株) …… 95
太冠酒造(株) …… 87
(株)大成電気 …… 48
(株)ダイタ …… 43
(有)ダイナ みさき薬局グループ …… 94
(株)大日マクリーン …… 86
大丸商事(株) …… 22
大陽食品(株) …… 106
(株)太陽設計 …… 86

大和証券㈱甲府支店……70
泰和電気工業㈱……47
高岡綜合事務所……61
㈱タカギ……75
㈱高添工業所……95
㈲高野牛肉店……48
㈱高野塗装店……58
貴美車……87
㈲高見澤建設……96
㈲高山電設……104
滝口建設㈱……88
滝田建材㈱……62
㈱タクミトーヨー住器……100
㈱武井医院……62
㈲武川会……77
竹川薬局 和田……78
㈱武田広告社……58
武田神社……58
竹野総合事務所……90
㈱たけまる……92
タチバナメディカルサービス……5
宅建社……104
㈱タップ……56
㈱タナアミスポーツ……79
田中機械彫刻……103
㈱タンザワHD……表4

ち

チェリー美容室……88
チェルト……90
㈲力石塗装……51
竹林堂……77
千野建材㈱……94
中央電気㈱……52
㈱中央ビルサービス……106
中央ベニヤ㈱……90
中部建材興業㈱……104

つ

塚田忠久税理士事務所……88
つけそば一福……106
㈱土屋工業……66
つつじヶ崎温泉……105
㈱津々美造園……106
TSUBO……83
露木耳鼻咽喉科医院……86
㈲ツルタ設備……91
鶴田電気㈱……111
ツルヤ化成工業㈱……102

て

ティーエーシー武田消毒㈱……19
㈱T's resort……72
てっぱん秀……98
㈱テレビ山梨……77
テンアベレージ……104
てんぐらーめん……108

と

㈱テンヨ武田……75
㈱電通システム……80
東京鮨……105
東京地方税理士会・甲府支部日新会……6、7
㈲銅信……64
東八商事㈲……80
㈱東和……66
常磐ホテル……58
㈲戸島造園興業……99
㈱とまと本店……40
㈱トミオカテニス……94
富竹歯科医院……81
㈲豊和興業……101
トヨタホーム東京㈱……61
㈱トヨタレンタリース山梨……94
㈱Dreammap……37
都立大ペインクリニック……85
トロピカルファーム南アルプス……99
どんぐり……85

な

㈱内外……74
内藤楽器㈱……103
内藤歯科医院……95
㈱内藤乳販……100
㈱内藤ハウス……25
㈱中家製作所……46
㈲長井工業……92
㈲中川看板店……111
㈱なかごみ……100
なかざわ歯科医院……90
中沢歯科医院……101
㈲中沢実業……67
中澤税理士事務所……52
㈱中村……101
㈱中村建設……82
なかむら内科クリニック……84
なかむら保育園……110
㈱なじみや酒販……76
七沢歯科医院……102
㈱七保……74
南向山海禅寺……92
南信工営㈱……50
南西スズキ販売㈱……91

に

にいな歯科医院……96
201ゴルフ会（S56～H4年卒）……32
西東京予備校……92
㈲日眼甲府薬局……102
㈱ニッキグラフィカ……80
㈱日建……80
日章㈱……84
(福)日新会……77
㈱日新宣伝用品社……68
日星㈱……82
㈱日設工業……111
新田石材店……85
日東金属㈱……78
日東物産㈱……83
㈲二宮眼科医院……80
㈱日本ケアサプライ山梨営業所……73
㈱日本コーイン……108
日本連合警備㈱……91
㈱ニュー平和……89
人形のあめみや……54

ぬ

㈱沼田鉄筋……110

ね

ネッツトヨタ甲斐㈱……14

の

㈱ノウハウバンク……108
のざわ耳鼻咽喉科クリニック……67
㈲野中製材所……62
NomurA工芸……83
野村証券㈱甲府支店……59
野村養蜂場……89

は

バード国際特許事務所……75
㈱ハートフルスタッフ……77
㈱ハウジング建都……59
㈱ハギ・ボー……42
㈱はくばく……49
畑歯科医院……89
花形歯科医院……82
話し方教室スピーチ・スピーチ……105
㈲花寿……94
㈱羽中田自動車工業……65

[illegible]医院 …… 33
(株)馬場設計 …… 34
疾測量(株) …… 89
早野潔 昭和36年卒 …… 3
(株)早野組 …… 2
原歯科医院 …… 110
バン写真館 …… 104
ひ
(有)ピアジュエリー …… 101
ビーイングコーポレーション …… 53
BEAM …… 90
(株)樋川建設 …… 74
(株)樋川建築 …… 97
樋口サイディング …… 109
樋口歯科医院 …… 93
(有)樋口土建 …… 100
bistroMARLU …… 97
BIGDIAMONDS …… 99
ひはらクリニック …… 69
(株)ひまわりサポート …… 64
ヒューコムエンジニアリング(株) …… 25
ビューティーサロン松木 …… 79
美容室侃侃 …… 78
美容室パンプアップ …… 78
(株)HIRO ever …… 106
(有)ヒロキハウジング …… 102
廣瀬醫院 …… 52
(有)ヒロセコンストラクション …… 77
(有)ヒロ野草研究所鍼灸院 …… 91
PinkRose …… 92
ふ
ファイン企画 …… 78
(株)ファルベ …… 88
フィアスホーム甲斐梨店 (株)トーヨーハウジング …… 93
Fix …… 87
[illegible]ディシハラ …… 105
[illegible] …… 103
[illegible] …… 78
[illegible] …… 102
(株)フォス[illegible] …… 45
ふくし信託(株) …… 57
福島整骨院（竜王） …… 55
富国生命保険(相) …… 76
(株)富士環境 …… 49
富士急行(株) …… 60
富士急トラベル(株) …… 107
(株)富士グリーンテック …… 57
(株)富士工業 …… 43
(株)フジコー …… 88
富士見歯科医院 …… 63
富士冷暖(株) …… 64
豊前医化(株) …… 80
双葉クリニック …… 89
フラワーデザインソンブレイユ …… 55
フランスベッド(株)甲府営業所 …… 107
フルーツパーク富士屋ホテル …… 100
(株)BLOOM …… 78
NPO法人ふるさと …… 78
(株)古屋 …… 110
古屋法律会計事務所 …… 102
(株)ブレーメン …… 95
(合)VLOO …… 57
(株)プロトコーポレーション …… 111
へ
(株)ベストアドバイス …… 93
(株)ベルキャスト …… 44
ほ
(有)北条油店／三栄自動車(有) …… 98
POLA甲府駅北口店 …… 100
(株)保険ドリーム …… 110
保坂医科医院 …… 37
保阪歯科医院 …… 37
細田眼科医院 …… 67
ほそだクリニック …… 77
ホソダ不動産(株) …… 76
[illegible]テル千安 …… 47
[illegible]会 …… 21
[illegible]事務所 …… 100
[illegible]事務所 …… 97
[illegible] …… 71
ま
マコト医科[illegible] …… 41
(株)松永電工 …… 76
(株)マツムラ酒販 …… 54
(株)マリアージュ …… 92
(株)マルアイ産機 …… 51
(有)マルイチ中沢 …… 89
まるい林材 …… 71
まるさ商事(株) …… 60
丸十山梨製パン(株) …… 111
マルジン薬局北口店 …… 87
(有)丸八ベーカリー（タイムベイク） …… 109
(株)丸政 …… 45
(株)丸正渡邊工務所 …… 69
(株)マルモ …… 55
(株)満足屋 …… 80
み
ミートタカハシ …… 81
(株)三浦製作所 …… 55
(有)美郷 …… 85
御崎神社 …… 81
(医)静正会 三井クリニック …… 63
三井歯科医院 …… 111
(株)三井住友銀行甲府法人営業部 …… 48
(有)三井利夫商店畳工房山正 …… 96
[illegible]ミ[illegible] …… 33
三[illegible]医院 …… 37
[illegible]設計 …… 73
[illegible]医院 …… 79
[illegible]美装 …… 82
[illegible]医院 …… 81
[illegible]事務所 …… 107
め
(株)メイ[illegible] …… 76
明治安田生命[illegible] …… 90
(有)明和ホーム …… 107
(株)メディアブレイン …… 106
(株)メモリアルハート「法事の窓口」 …… 31
も
望月耳鼻咽喉科 …… 90
もも薬局 …… 86
(株)森銀 …… 106
もりや歯科クリニック …… 107
お食事処 もりやま …… 103
八雲製菓(株) …… 50
や
厄除地蔵尊塩澤寺 …… 71
厄除地蔵尊大祭奉賛会 …… 71
(医)慈広会矢崎胃腸外科 …… 52
(医)矢崎耳鼻咽喉科医院 …… 85
やさしい手甲府 …… 表3
弥助鮨 …… 111

㈱柳川芳鉄工所……80
㈱山市成工……67
山一窯業㈱……89
㈱山形一級建築士事務所……74
㈱山木建商……107
㈱山田設備……48
山梨アサノコンクリート㈱……110
㈱山梨医療福祉研究所……93
山梨OA機器販売㈱……98
山梨ガーデン㈱……98
㈱山梨技術研究所……96
山梨クラリオン㈱……85
山梨グローブシップ㈱……100
㈱山梨県環境科学検査センター……97
山梨縣護國神社……81
山梨県信用農業協同組合連合会（JA山梨信連）……70
ヤマナシケンソー㈱……64
山梨建鉄㈱……66
山梨県弁護士会甲府一高同窓会……8
山梨県民球団（㈱ほけんのぜんぶ）……33
山梨県民信用組合……97
山梨交通㈱……98
㈱山梨シール印刷……71
山梨自動車産業㈱……101
山梨住宅工業㈱……33
㈱山梨新報社……65
山梨信用金庫……59
山梨スズキ販売㈱……44
㈲山梨総合保険……96
山梨中央教習所……本文164
㈱山梨中央銀行……1
山梨中央青果㈱……66
山梨通運㈱……85
山梨トヨタ自動車㈱……75
山梨美健センター……91
山梨ヤクルト販売㈱……53
山梨ユニフォーム㈱……98
山梨YMCA……86
山本基礎工業㈱……35
箭本外科整形外科医院……83
㈲八幡実業……106
㈾和らぎ……98

ゆ
㈱UH製作所……54
UNUS……109
㈲友貴……99
㈱UG都市建築……47
雄商店……107
YOUSHOPおかだ……96
㈱ユーティーワイ企画……92
湯澤工業㈱……98
ユタカ電機㈱……87
湯殿館……47
㈱ユニオックス……100
㈱ユニセン……111
㈱湯村温泉病院……77
湯村家電……78
㈱湯村自動車学校……42

よ
横内司法書士事務所……106
㈲和州会 吉田医院……75
吉野聡建築設計室……86
㈱依田組……91
依田研磨㈲……97
㈱依田酒店……104

ら
ラーメン食堂れんげ（㈱ワークス）……108
楽笑酒場呑んべゑ……97
㈱ラッキーアンドカンパニー……22
Lafata（ラファータ）……109

り
㈱リアレル（和風焼肉 和志牛）……109
㈱リーベンモア……109
リストランテバローロ……105
リズムオブラブ……107
㈱立地企画……44
竜王レディースクリニック……65
㈱リンクス……110
林野内科医院……81

る
障害者支援施設ル・ヴァン……99

れ
㈱レイコー……106
レーザープロ……98
レストランバーSAIKI……87

ろ
㈱ロード……72

わ
㈱ワイ・シー・シー……46
㈱YSKe-com……15
YKKAP㈱山梨支店……95
若尾会計事務所……94
若尾歯科医院……110
若駒……100
㈲若月建設……101
和酒とり笑……78
NPO法人わたげの会……46
㈱ワタショク……83
渡辺建設興業㈱……76
㈱渡辺工業所……54
㈱渡辺畜産……74
綿半ソリューションズ㈱……28

第145周年
甲府中学・甲府一高同窓会
協賛者御芳名（敬称略）

㈲青沼家具店
㈱アクティス
穴水㈱
有泉幸美
アルガベリーファーム
㈱石友
和泉産業㈱
すし・うまいもの処伊津美
伊藤友江・岡田弘子
㈲井上建装
㈱今井整形外科医院
岩間井戸工業㈱
㈲うし奥商店
㈱エバークリーン
㈱エム企画
㈱遠藤紙店
岡　健司
㈱岡電気設備
㈱奥湯村福祉会
㈲小沢自動車修理工場
㈱オネスト
小野建設㈱
オリックス自動車㈱甲府支店
甲斐日産自動車㈱
数野裕美

金子勝人
上條　斉
川出歯科医院
川鉄産業㈱
岸本和子
窪田哲也公認会計士事務所
窪田智春
クリーニング志村
㈱社団敬祥会
㈱恵優会
㈱工藝舎
甲府一高昭和51年卒有志
甲府ガス㈱
㈲弘法湯
国際勧業㈱
国母郵便局
㈱Cocoa
五味皮フ科医院
㈱コモリ
手仕事パン工房 榮や
㈱サン・ライフ
㈱JMK MARUFUKU
㈲シェソール
ジェムワン
敷島書房

㈱島田貴金属店
産科婦人科清水クリニック
正武堂
㈱正文堂
昭和測量㈱
新次亭
末木浩一（昭和47年卒）
センティス21
ソネット
㈱ソーラーDo
Thai jasmine
高橋久
㈱たくみ会
竹内克雄（昭和36年卒）
武田司法書士事務所
㈱ダスキン山梨
㈱中部環境開発
鶴田初江
寺田
DOux CAFE
東京ガスエスネット㈱
とざわ歯科医院 戸沢茂紀（昭和42年卒）
鳥玄
㈱鳥林
長澤勝司

ナチュラルグレース
㈱ナビクリエイト
日経工業㈱
羽黒工業㈱
花形莞司（昭和37年卒）
㈱ハヤノ通商
半田武彦司法書士事務所
平岩工務店
深沢宝飾
ぺきん堂
㈱修信会 保坂歯科医院
松岡製菓
松澤整形外科
ミートプラザよだ
㈱水上
三井建設工業㈱
MEGUMIデザイン
㈱ユニズンマヌファクチャリング
湯村歯科医院
湯村ホテル
㈱四葉会
㈱米山
六曜館成澤秀仁
六角亭

第145周年
甲府中学・甲府一高同窓会
学年協賛者氏名

1組

青柳　宗
荻野　公一
桐戸　雅嗣
窪田　学
塩沢　剛
武井　豪
保延　和幸

2組

長田　大仁
金丸　哲
中澤　尋
丸山　徹
雨宮　優子
山村　千恵
山本　真紀

3組

遠藤　秀雄
荻野　貴史
小松　洋哉
中村　稔

4組

深沢　雅彦
米山　泰
飯沼　優子
草野　央
渡辺　多美子
山田　由紀

茅野　剛浩
永田　真一郎
野口　仁
保坂　晋久
山井　雄一
荒木さえ子
坂本　二葉
千野　早苗
内藤　美穂

5組

能美　淳子
村松あゆみ
若月　了子
関口　洋

6組

田草川直人
保坂　修男
宮澤　亘
長田　尚子
保坂みゆき

長田　達也
三枝　孝史
三上　憲勝
米山　一貴
金子なつき
森澤　里恵
山村つぐみ
渡辺　恵美

7組

飯島　禎典
真壁　浩紀
若尾　和英
雨宮かおる
伊藤　朋香
岸本かおり

8組

白石　陽子
山口晃一郎
飯室　由香
大久保千里
川井　啓子
高野　祐子
仲澤　晴子

9組

工藤　忠誠
輿水　吾郎
齊藤　恵一
内藤　勝彦
長沼　宏記
根津　宏次
花形　陽一
古屋　亮
小池　ゆり
村松　篤子

一足（ひとあし）
Take the FIRST step

第145周年 甲府中学・甲府一高同窓会 実行委員会 【平成4年卒】

実行委員長

根津　宏次（9組）

事務局

山井　雄一（4組）事務局長
岸本 かおり（7組）次 長
宮澤　　亘（5組）会 計

記念誌部会

青柳　　宗（1組）副実行委員長兼部会長
若月　了子（4組）副部会長
中澤　　尋（2組）
山田　由紀（3組）
荒木 さえ子（4組）
内藤　美穂（4組）
石川　　治（8組）

会場部会

野口　　仁（4組）副実行委員長兼部会長
永田真一郎（4組）副部会長
志村陽一郎（2組）
坂本　二葉（4組）
能美　淳子（4組）
村松あゆみ（4組）
小池　ゆり（9組）

広告部会

飯島　禎典（7組）副実行委員長兼部会長
窪田　　学（1組）副部会長
武井　　豪（1組）
保延　和幸（1組）
長田　大仁（2組）
小松　洋哉（3組）
石田　敬之（4組）
米山　一貴（6組）
内田　達也（7組）
岸本　直也（7組）
川井　啓子（8組）
齊藤　恵一（9組）
花形　陽一（9組）

広報ITチケット部会

金子 なつき（6組）副実行委員長兼部会長
森澤　里恵（6組）
渡辺　恵美（6組）

強行遠足部会

丸山　　徹（2組）副実行委員長兼部会長
工藤　忠誠（9組）副部会長
雨宮　優子（2組）
安藤　芳恵（2組）
小泉美智子（2組）

【平成21年卒サブ幹事】

細野 貴寛（5組）・小池 優希（7組）・長田 裕作（5組）・小宮山 宗（2組）・堀内 麻衣（2組）

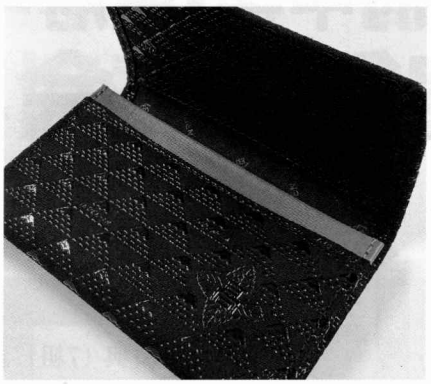
第145周年 甲府中学・甲府一高同窓会

オリジナルグッズ紹介 ロビー物販コーナーにて販売中！

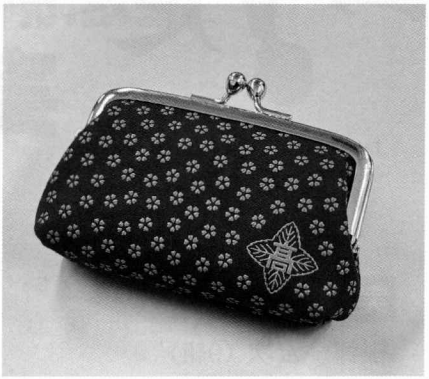
是非、お立ち寄りください。数量限定品につき売り切れの際はご容赦ください。

トリプル No.1の コラボグッズ 誕生!!

印傳屋 ●十四代 上原勇七



名刺入「たかね」甲府一高SP ed. 8,900円



小銭入「小桜」甲府一高SP ed. 3,900円

甲府一高の校歌にも歌われている「日本一の富士山」。その姿を独自の模様で表した甲州印伝の“たかね”は、県内「随一の歴史を有する印傳屋」の人気商品です。今回、その“たかね”に「甲府一高」の校章をワンポイントデザイン。山梨のトリプルNo.1コラボ名刺入【たかね 甲府一高スペシャルエディション】が誕生しました。

小銭入【小桜 甲府一高 スペシャルエディション】は、同型商品の紋様を甲府中学の校章である「小桜」柄へ変更。更に甲府一高の校章を追加しました。名刺入、小銭入のどちらも、話題が広がる!絆が生まれる!第145周年同窓会オリジナルの特別な逸品です。

その他にも、強行遠足に因んだ【小諸(信州産)の林檎ジャム】や同窓会名物【甲府一高どら焼き】、【生徒会歌・校歌・応援歌集CD】や【第145周年同窓会記念タオルマフラー】など会場では様々なグッズをご用意しています。

生徒会歌・校歌・応援歌集CD　300円

タオルマフラー　1,500円

昨年も大好評!同窓会名物 一高どら焼き(鈴木製菓)も販売中!

編集後記

本日、ここに『同窓会記念誌』の発行ができましたことに感謝の気持ちと喜びで胸がいっぱいです。

約1年前に記念誌部会を立ち上げ、企画を考えて取材や撮影を進めていくなかで、末木同窓会長、飯島校長をはじめ、平成3年卒の先輩や平成4年卒の同級生、卒業生や現役生など多くの皆様にご協力をいただきました。また、先の見えない社会情勢のなか、多くの企業様、個人の皆様から温かいご支援を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

記念誌の制作活動を振り返ると、最も多く口にしたのは『**ありがとう**』という言葉でした。自分から相手に伝えたり、相手から伝えられたりと。この言葉を発した後に吸い込んだ空気は、胸の奥に軽やかに流れ落ち清らかな気持ちになりました。また、『**ありがとう**』と言われた時には、耳に心地よく響き、全身が優しい空気に包まれるような感覚を何度も経験しました。

全体の実行委員会の活動では、一人ひとりの力は小さくても、様々な才能を持った仲間が集まり、互いに協力し合うことで、想像をはるかに超える大きなことを成し遂げられるのだと、深い感動を覚えました。

さらに、この活動を通して、同級生との奇跡の再会や『甲府一高』という共通項で世代を超えた多くの皆様と出会えたことは、何物にも代えがたい財産となりました。この1年間、私たちはとても貴重な時間を過ごすことができました。

最後になりますが、この記念誌に携わってくださったすべての皆様に心からの感謝を込めて、改めてこの言葉を贈らせていただきます。

『ありがとう』

第145周年 甲府中学・甲府一高同窓会実行委員会
記念誌部会

令和7年度 同窓会記念誌
Take the FIRST step
Hitoashi 一足

発行日:令和7年5月17日
発　行:第145周年甲府中学・甲府一高同窓会実行委員会
企画・取材・撮影・制作:記念誌部会
広告編集・印刷・製本:株式会社少國民社

在宅介護
やさしい手甲府
代表取締役社長　根津 宏次（平成４年卒）

小江戸甲府
花小路

2025.4.19
Grand Opening

Website　Instagram

新しい
城下町が
はじまる

株式会社 タンザワHD　代表取締役会長 丹沢 良治（昭和41年度卒）